

全船協

第130号 2016年1月 新春号



写真提供 JOGMEC



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

室町海運株式会社

代表取締役社長 佐藤裕信

〒101-0047 東京都千代田区内神田二丁目5番5号

城南ビル5階

電話 (03) 5298-2570

FAX (03) 5298-2575



北星海運株式会社

代表取締役社長 佐藤有造

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号

セントラルビル6階

電話 (03) 3275-5520 (代) FAX (03) 3275-5575

株式会社 コトラシステム

代表取締役 土屋正徳

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13

日本橋船佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975

FAX (03) 3245-6980

E-mail: cotrasystem@nifty.com

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

顧問 岩江成徳

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号

TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520

E-mail: saryuksn@violin.ocn.ne.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ

TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972

E-mail: info@bands-k.com

一般社団法人 日本船長協会

会長 小島 茂

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3265-6641

FAX (03) 3265-8710

http://www.captain.or.jp

一般社団法人 海洋会

会長 山本 勝

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル6階)

電話 (03) 3262-8632

FAX (03) 3262-6909



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 井手 祐之

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3264-2518

E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp

URL http://www.marine-engineer.or.jp

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 前川 弘幸

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番3号
磯村ビル6階

電話 (03) 3502-2231

http://www.nikkaibo.or.jp

E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp

・海技教育支援事業 ・奨学金貸与事業
・帆船海王丸体験航海事業 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 宮原 耕治

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 URL http://www.macf.jp

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 月3回1.11.21日発行
年間購読料 本体価格(8,460円) + 税 送料別

海と船の雑誌 ラメール

年6回奇数月発行

年間購読料 本体価格(4,002円) + 税 送料別

お申し込み

お問い合わせ

(公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6

電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

目 次

表紙…三次元物理調査船「資源」……………	1 頁
巻頭言…会員との情報公開をベースに……………会長 岩田 仁……………	4 頁
海事人材育成プロジェクトの進捗状況……………専務理事 及川 武司……………	5 頁
第 2 回通常理事会報告……………事務局……………	9 頁
工学院大学で特別講義……………副会長 赤嶺 正治……………	12 頁
都立大島海洋国際高校訪問報告書……………相談役 本望 隆司……………	14 頁
ペリー箱館来航の図版を読む……………北海道函館水産高等学校教諭 我妻 雅夫……………	17 頁
社会人によるキャリアガイダス……………都立小山台高等学校出前講座…………… 名誉会員・海事補佐人 田中善治……………	21 頁
海事代理士という仕事……………田口 はるか……………	22 頁
平成 27 年度商船高専卒業生進路状況……………事務局……………	23 頁
優秀な人材採用へ強い意欲…海運・造船業界 求人動向 1 1 月現在(キャプラン提供)……………事務局……………	24 頁
将来の夢・就きたい職業について……………都立大島海洋国際高校在学準会員の声……………事務局……………	25 頁
商船高専生活の思い出……………門脇 元……………	27 頁
海事ニュース……………	28 頁
北から南から	
富山高等専門学校……………	30 頁
鳥羽商船高等専門学校……………	34 頁
広島商船高等専門学校……………	38 頁
大島商船高等専門学校……………	45 頁
弓削商船高等専門学校……………	49 頁
航海訓練所……………	51 頁
本部・支部だより……………	55 頁
「第 27 回といちクラブ」ゴルフコンペ開催……………神戸支部長 福地 赳雄……………	57 頁
第 17 回イレブンマリナーズ杯ゴルフコンペ……………幹事 岩田 仁……………	58 頁
お知らせ……………事務局……………	59 頁
会費納入者御芳名……………事務局……………	60 頁
海の図書室……………	61 頁
時事寸評……………	62 頁
表紙写真解説 三次元物理調査船 資源……………	62 頁
編集後記……………	62 頁

巻 頭 言

～会員との情報交換をベースに～

会 長

岩田 仁

明けましたおめでとうございます。新たな年を迎えるに当たり、会を代表し会員の皆様に謹んで新年の挨拶を申し上げます。また、海上や家庭で新年を迎えられた会員の皆様のご多幸をお祈りするとともに、協会運営へのご協力とご支援に感謝します。本年もよろしくお祈りいたします。



昨年、イスラム国の横暴が目立ち都市の治安が懸念される年でした。

その横暴は日本人ジャーナリストの人質殺害やパリ風刺新聞社編集室への襲撃から始まり11月のパリ市街地の連続同時テロ事件へと発展してテロが世界の大都市に広がる気配となり都市の治安維持が世界政治の中心となってきた感があります。外国の地で活躍中の会員諸氏がこのような悲惨な事件に巻き込まれることの無いよう切に祈るばかりです。

暗いニュースの多い中でも私たち日本人を力づけるニュースもありました。大村智氏と梶田隆章氏のノーベル賞受賞は勿論ですが、スポーツ好きの私にとってはラグビーのワールドカップで日本代表チームが日本ウエイを貫き大活躍したことでした。日本人の良さを見出し、チームを鍛え上げた指導者の技量と熱意に敬意を表します。指導者が代わるとこうも結果が変わるのかと指導者の重要性を再確認させられた「事件」でした。

平成19年第1次安倍内閣は海上基本法を制定し、その翌年の平成20年第1期海洋基本計画を策定、その中に日本人外航船員を10年間で現状の1.5倍に増員する計画が発表されました。私たちも船員OBとして計画の達成を大きな希望を持って見守ってまいりました。しかし、計画の進捗現状を見ると平成20年度の2,315名から計画半ばの平成25年度は2,263名とむしろ減少傾向にあります。このまま推移すると私たちが抱いた望みは幻になってしまうことになる。

また、当協会は海洋基本法が制定された平成19年に国土交通省の認可を受け日本人船員の増員に貢献すべく無料の船員職業紹介事業を立ち上げました。しかし、求人は有るが求職者が絶対的に少なく残念ながら紹介事業は船員の増加に貢献できていない状況です。一度現役を退いた会員に復帰を促すも腰を落着けた第二の人生から再び現場へ復帰していただくことは難しくすべての求人の希望を叶えることはできていません。

昨年の7月「海の記念日」特別行事の総合開会式におけるスピーチで安倍総理は海運の重要性を述べ、続いて「海には資源も仕事もある。ぜひ次世代の若手には果敢に海洋開発にチャレンジしてもらいたい」と訴えた。そのため産学官をあげたコンソーシアム「未来の海バイオニア育成プロジェクト」を立ち上げると話されました。総理自らが国民に向け海洋の重要性を訴えることは海洋国家振興のためにも大きな力となり、また当協会の船員教育支援事業や船員職業紹介事業にもフォローの風となるでしょう。

本年は協会のホームページをリニューアルし若者向けにスマホからもアクセス可能として会員との情報交換に力を注ぎたい。そして、船員職業紹介事業の活性化や会員の直面している問題にも対応できる体制を整えて行く所存です。最後に、会員諸氏からの夢のある提言をお待ちしております。

海事人材育成プロジェクトの進捗状況と今後

全船協専務理事 及川 武司

商船系5高専と海事分野のステークホルダー（日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日海、国際船員労務協会）が協働して取り組んでいる同プロジェクトは商船教育の根幹部分でもあり、運営委員として参加している立場から、会員の皆様にその進捗状況を次の通り報告する。

1. プロジェクトの名称及び背景・概要・3種サブプロジェクトについて

◆名称等

「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発（通称：海事人材育成プロジェクト）」は文部科学省の大学間連携共同教育推進事業として平成24年度に採択された5年間の教育改善事業である。

◆背景

平成19年の海洋基本法の公布を受け、平成20年には海洋基本計画も政府から提言され、安全で安定した海上輸送の確保には海運を担う人材が不足している現状を打破することが急務であり、質の高い海事技術者（船員）の効率的育成の重要性が強く指摘された。

他方、近年の海上輸送における技術的変革により、海事技術者（船員）の資格に直接影響を及ぼす国際条約である STCW 条約（船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）が改正され、ECDIS（電子海図表示情報装置）やヒューマン・リソース・マネジメント（BRM）等の導入なども含むものとなり、海上輸送のグローバル化と技術革新の進展が海事技術者として具備すべき能力を大きく変貌させている。

海事分野における産学官（国土交通省、海運会社、海事関連団体、海事教育機関）が「社会ニーズに応える優秀な海事技術者の育成のあり方」について検討を行い、平成24年3月に「船員（海事技術者）の確保・育成に関する検討会報告」を纏め、新たな海事技術者に必要な資質と知識・技能に基づく海事教育内容の見直し、並びに海運業界と連携した海事教育の推進などを提言した。

それは海運業界が求める海事技術者の要件として、グローバル化に対応した資質と技術革新に対応した知識・技能が求められると共に海事分野のステークホルダーとの人材育成上の連携強化が指摘された。

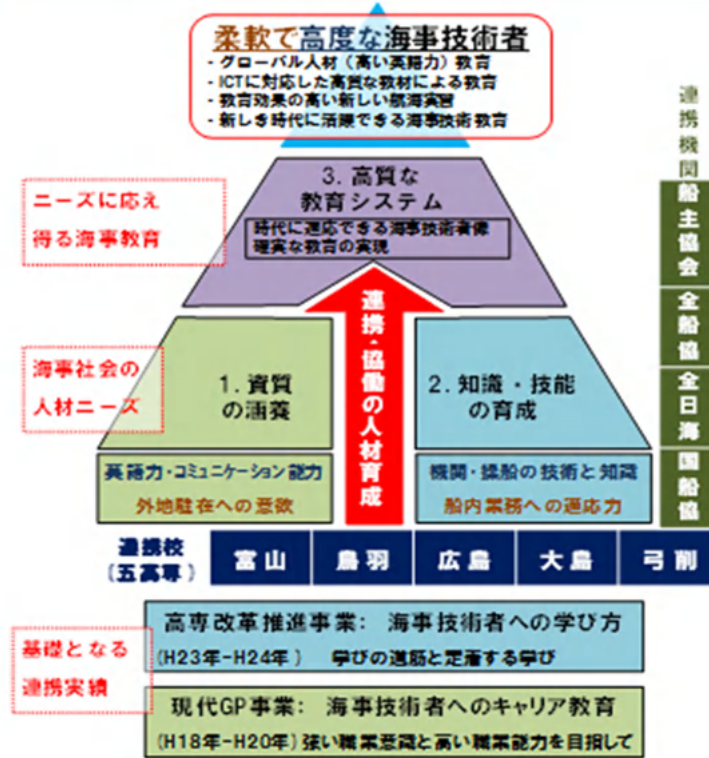
◆概要

本事業は下図に示すように、上述の海事分野の方針に従って、商船学科を有する五つの高等専門学校と海事分野のステークホルダーである海事関連団体の日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会が一つのチームを構成し、グローバル化に対応した **1. 新たな海事技術者に必要な資質の涵養** と技術革新に対応した **2. 新たな海事技術者に不可欠な知識・技能の育成** に取組、海運業界が求める時代に適応できる「柔軟で高度な海事技術者」の継続的かつ確実な育成を目指し、海事教育機関である高等専門学校商船学科として必要となる **3. 新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システム** の実現を試みるものである。

具体的には、平成24～28年度の5年間において、3種サブプロジェクトを企画・実施して、新たな海事人材を育成し得る質の高い教育システムの開発に取組み、その成果を海運界、他海事教育機関や他高専に広く紹介するものである。

海事分野における高専・産業界連携による 人材育成システムの開発

- 時代に適應できる柔軟で高度な海事技術者を目標して -



◆ 3種サブプロジェクト

1. 新たな海事技術者に必要な資質の涵養 (総括：鳥羽商船高等専門学校)

基本的なコミュニケーション能力、基礎的な英語力、外地駐在への意欲等が求められ、鳥羽商船高等専門学校と広島商船高等専門学校が担当校になり、5高専商船学科が海事分野のステークホルダーと協働してグローバルな活躍が期待される英語のできる高専商船学科生の育成法の確立を目指す。

1-1 英語力向上プログラムの開発 (担当：鳥羽商船高等専門学校)

TOEIC スコア 500 程度をゴールとする英語教育プログラムの構築を目指す。

1-2 国際インターンシップの展開 (担当：広島商船高等専門学校)

商船学科4年生に対して単位化などを行い参加者の向上に繋げ、定着させることを目指す。

2. 新たな海事技術者に不可欠な知識・技能の育成 (総括：大島商船高等専門学校)

船舶の機関及び操船に関する基礎的な知識・技能、業務・生活への適応力が求められ、大島商船高等専門学校と弓削商船高等専門学校が担当校になり、5高専商船学科が海事分野のステークホルダーと協働して船舶の業務・生活に適應できる高度な知識・技能を有する海事技術者の育成の改善を目指す。

2-1 教科教材の開発、電子書籍化の推進 (担当：大島商船高等専門学校)

商船学科学生に確実に教授する必要な教材の開発、電子化等学習環境の改善を目指す。

2-2 新しい航海実習の提案 (担当：弓削商船高等専門学校)

3. 新たな海事技術者を確実に継続的に育成し得る質の高い海事教育システムの開発 (総括：富山高専)

富山高等専門学校が担当校になり、5高専商船学科が海事分野のステークホルダーと協働教育システムの確立を目指す。

3-1 海事技術者像と具備すべき知識・技能の提示

3-2 確実な海事教育システムの提示

2. 平成 24 年から 3 年間の取組と成果

1-1 英語力（コミュニケーション力）向上プログラムの開発

①英語教育補助員による英語教育及び拠点教室を整備し、新たな英語教育プログラムを検討、開発する。

(成果) 富山 2 名、鳥羽 1 名、広島 4 名、大島 1 名、弓削 2 名の補助員を配置して展開したが、学生の TOEIC スコアの推移は順調にアップした学校もあるが停滞している学校もあった。

②英和併記の専門教材を連携機関と協働で開発する。

(成果) マリタイムカレッジシリーズの「船舶の管理と運用」を英語に完訳し、電子化した。

③商船学科専門教員の英語外地研修を実施する。

(成果) 2 年間で 16 名を KCC(Kauai Community College)に 2 週間程度派遣研修した。

1-2 国際インターンシップの展開

① ハワイの KCC は最適な生活・学習環境が整っており、2013 年より毎年 3 年生を主体に 8~11 名/引率教員 6~7 名が参加している。

② シンガポールの SMA(Singapore Maritime Academy)が主催する客船でのキャンプは英語を学習する

モチベーションの向上に寄与するが、2013 年 5 名、2014 年 4 名の参加学生は鳥羽のみであった。

③ フィリピンの AMACU(AMA Computer University)は海事英語に関するカリキュラムが出来ており、航海系、機関係に分けての授業に 2015 年 8 名の学生と引率教員 1 名が参加した。

④フィリピンの MAAP(Maritime Academy of Asia and the Pacific)海事英語講師 2 名を迎えて、弓削、大島、広島で学生向け、教員向け海事英語セミナーを実施した。

(成果) 参加費の低減及び引率者を含む学内体制の整備並びに GI-net を使用した 5 校情報共有システム等、参加者を増やす方法を検討した。

2-1 教科教材の開発、電子書籍化の推進

(成果) 以前のプロジェクトで 3 冊、本プロジェクトで 5 冊の合計 8 冊が刊行・電子化され、平成 27 年度中に 6 冊を刊行する予定。

2-2 新しい航海実習の提案

(成果) これまでの収集データを基に次世代校内練習船モデルについて検討を進めた。

3-1 新たな海事技術者像と具備すべき知識・技能の提示

諸外国及び日本の海事社会の人材現況について調査・解析し、海事社会の人材ニーズと高専商船学科が教育すべき人材との整合を試みる。

(成果) ①平成 24 年度に「先進諸国船員の育成・就業実態調査」を実施した。

②平成 25 年度に「アジア諸国船員の育成・就業実態調査」を実施した。

④平成 26 年度に「日本人海事技術者のライフサイクルに関するアンケート調査」を実施した。

3-2 確実な海事教育システムの提示

高専商船学科教員自らが海事社会における実学の現況を視察調査し、求められる人材と具備すべき知識・技能、資質を把握すると共に、高専商船学科が育成すべき人材を確実に育成し得る質の保証される海事教育システム、商船学科コアカリキュラム等の開発を目指すもの。

(成果) ①高専教員の船舶運航実務乗船研修（9 名参加）を実施した。

②高専教員の船舶管理と港湾・物流業務に関する研修（31名参加）を実施した。

3. 平成 27 年からの 3 種サブプロジェクトの取組

1-1 英語力向上プログラムの開発（平成 27 年/28 年度）

- ①グローバル拠点（教室）の利用と英語教育補助員による英語教育/その成果の評価・検証。
- ②英語表記の商船学科・専門教材/教科書の開発/TOEIC スコアの推移による英語力向上の検証。
- ③商船学科専門教員の英語外地研修（KCC ハワイ）/専門科目への英語活用法や授業法の検証。

1-2 国際インターンシップの展開

- ①KCC ハワイ、SMA シンガポール及び MAAP フィリピンの海事英語講師によるセミナーの評価・検証/KCC のより効果的プログラムの検討、SMA の英語力向上効果・グローバル志向の有効性を検証。
- ②/新たな国際インターンシップの開拓。

2-1 教科教材の開発、電子書籍化の推進（平成 27 年/28 年度）

- ① 冊の教科書を刊行する/海技試験合格者の倍増。

2-2 新しい航海実習の提案

- ① 中間評価を受けて、新たに異なった視点から提案を作成し、共同利用による実習の効果を検討する。

3-1 新たな時代に活躍できる海事技術者と具備すべき知識・技能の提示（平成 27 年度）

- ①新たな海事技術者のキャリアモデルの検討・整理。（海上職・陸上職別のキャリアモデル）
 - ②新たな海事技術者が商船学科卒業時に身に付けるべき能力の定義。
 - ③商船学科が担う新しい海事技術者育成法の検証・整理。（基礎知識、リーダーシップ、コミュニケーション能力の育成法と検証法及びキャリア教育の具現化並びに人材育成上の産学連携の具現化）
- （平成 28 年度）

10/20 年後に活躍できる海事技術者像と具備すべき知識・技能を纏め、海事分野のステークホルダーの意見を得て目標を達成させる。

3-2 確実な海事教育システムの提示（平成 27 年度）

- ①前年度と同様に高専教員の船舶運航実務乗船研修及び船舶管理・港湾・物流業務に関する研修。
 - ② 船学科教育システムの具備すべき要件を検討し、海事教育システム平成 27 年度案の纏め。
- （平成 28 年度）

平成 27 年度案に対するステークホルダーからの意見及び再検討により目標を達成させる。

4. プロジェクト終了後について

本プロジェクトは平成 24 年 3 月の産学官による「船員（海事技術者）の確保・育成に関する検討会報告」に基づく提言を具現化して「10/20 年後に活躍できる海事技術者像と具備すべき知識・技能」と「新たな海事技術者を確実に育成し得る高専商船学科の教育システム」を提示し、卒業生の具備すべき能力（高専商船学科出口レベル）を示す事が出来る。しかしそれは現況に基づく内容であり、時代に合わせた柔軟な対応、変革を重ねて行くことが常に求められるし、産学連携を継続して行う必要がある。

他方、高専商船学科の教育を考えた場合、出口レベルを維持する上で必要となるのが入口レベルの確保である。今後少子化が急激に進む中で優秀な入学生を如何にして確保するかが大きな課題と考えられ、その可否が日本人海事技術者の存続の有無に繋がることを肝に銘じておくべきと考える次第である。

平成 27 年度第 2 回通常理事会報告

- 1 日 時：平成 27 年 10 月 29 日（木）18 時 00 分～21 時 10 分
- 2 場 所：全日本船舶職員協会本部会議室
会長より開会の挨拶
- 3 議長選出：岩田会長（定款第 39 条による）
- 4 書記任命：田島事務局長
- 5 出席者（順不同、敬称略） 理事総数 14 名
 - 1) 理事 出席者 11 名（定款第 40 条に定める定足数の過半数以上の出席）
相川康明、赤嶺正治、岩田仁、及川武司、大賀英明、田中三郎、福地赳雄、
松見準、三輪史郎、山田貢、小池信雄
欠席者 3 名
加山文治、七呂光雄、望月正信 3 名
 - 2) 監事 出席者 1 名
渡部英利
欠席者 1 名
亀山道義

出席理事及び欠席理事の確認があり、定足数に達している旨の確認報告があり、
理事会が成立する旨の報告後、定款第 44 条により、議事録署名人に会長及び
監事が選任された。

- 6 議事録署名人 定款第 44 条により、会長及び監事とする

7 議事

事務局から第 2 回理事会を開会する旨が表明され、定足数について理事総数 14 名中、出席者 11 名で、理事過半数の出席があり、本理事会は成立しているとの報告があった。議事録署名人について定款第 44 条第 1 項規定により「出席した会長及び監事」になるとの確認が行われた。

定款第 39 条の規定により、岩田会長が議長に就いて、本会議の議事の審議開始を宣言後、相川理事より、緊急動議（1.及川専務理事を解任すること。2.北九州支部並びに神戸支部の閉鎖）が提案され、その内容、理由が説明された。会長より本緊急動議については本日審議すべきであるが、その審議は本日予定されていた審議事項及び報告事項が多数あるので、本日の議事の「その他」の中での審議としたい旨の提案があり、審議事項の最初に審議すべきとの提案と会長提案の二案が検討された結果、会長提案が了承された。

会長は審議に入る前、審議事項には時間のかかるものがあるので、比較的時間の読める報告事項を先に行いたいと提案し、賛否両方あったが、会長提案が承認され、報

告事項からの開始となり、直ちに審議に入った。

1) 報告事項

① 田島事務局長着任

事務局より、七呂前事務局長の後任に田島事務局長が9月1日着任の報告がなされた。

② 役員候補者選考委員会について 資料5

高専五校(資料5参照)からの委員については既に決定しているが、各校の委員については加山理事から推薦が未だなされていないが、事情があるものとして、暫く待つこととしている。

本報告について、相川理事より委員については出身理事の同意が必要であるはずであるが、広島については報告もなく決められており手続きに瑕疵があり、認められないとの意見あったが、瑕疵の有無については議論がなされた結果、特段の問題ないものとして了承された。

③ 執行業務報告 資料6

事務局より資料5の若干の説明があり、詳細については資料精読願うことで了承された。

資料の中の臨時理事会が2回であるが、実際は3回でないかと指摘があり、3回であることが確認され、その様に修正する。

会員獲得の活動報告の詳細(大島国際水産高校に対する活動)が記載されていないので追加すべしとの指摘があり、詳細を追加することになった。

2) 審議事項

① 1号議案 平成27年度中間決算について ……資料1

事務局より資料1に基づき若干の説明がなされたが、事前の報告書と相違の説明が求められたが、相違の経緯が説明され、資料1通り承認された。

尚、中間決算については定款上、理事会にはかる必要はないが、事務局としては今後とも中間決算は理事会での報告事項と同様の扱いとしていくこととした。

② 2号議案 ホームページのリニューアルについて ……資料2

事務局より現在2社(ラディックス及びインフォーネット)の見積(資料2)が配布された。初期費用と月次費用ともにラディックスが低価格であること。両社の月次費用の大きな違いはコンテンツの増設が有料(ラディックス)と無料(インフォーネット)とがあることも説明がなされた。リニューアルの必要性、又内容等の議論が再度あり、必要である旨確認され、2社のいずれを採用するか採決の結果、ラディックスが採用されること、又導入時期については、内容も十分検討したうえで、準備でき次第着手することに決定した。

- ③ 3号議案 商船学科の維持に関する各同窓会長との検討会設立について…資料3
事務局より先般（10/2）の各校商船学校の同窓会長との懇談会の際、一部同窓会長より商船系高専の将来について非常に危機感（詳細は資料3を参照）を感じているので、全船協として何らかの支援ができないか、又田中理事より同懇談会後の懇親会で各会長より何がしかの委員会を設置すべきではとの提案があった旨、報告があり、委員会設置等について検討すべしとの提案がなされた。
同提案を踏まえ、様々な意見が出され、学校側は直接的な全船協の支援は望んではいないのであるとの意見が大勢となり、出来るだけ早い機会に、この件に関し各同窓会長との懇談会を再度開催し意見を確認し活動方針を明確にすることとした。
- ④ 4号議案 海事振興連盟への入会について ……資料4
事務局より以前から同連盟への賛助会員として入会の勧誘があり、又情報収集のためにも今すぐでなくても加入したい旨の提案があった。
加盟の意義が議論されたが、基本的には今後機会をみて、加入方向で了承された。

3) その他

今回相川理事より提示された、緊急動議について審議するか否かについて、各理事に確認がなされ、審議すべしとの意見が多数を占めたが、渡部監事が体調を崩され途中で理事会を退席されたので、監事欠席状態での審議は定款に抵触するのではとの意見があり、協議した結果、次回通常理事会を待たずに、年明け早々にでも臨時理事会を開催し、審議する旨（開催時期については事務局一任）確認された。

工学院大学で特別講義

副会長 赤嶺 正治

2015年6月24日（水）工学院大学八王子キャンパスにて特別講義（以下講義という）を行いました。対象は今年度新設された先進工学部の全学科（応用化学、環境化学、機械物理、応用物理、生命化学）の学生400名で、2コマ（1コマ13:20~14:50、2コマ15:00~16:30）に分けて実施されました。

今回の講義を行うきっかけは、ある大学院のゼミナールで工学院大学教育開発センターの二上武生（にかみ たけお）特任教授と同席したことからです。このゼミナールでは自身のキャリアをテーマに研究発表するのが習いで、私は40余年の船員経験とその中から学んだ人材育成について発表しました。この発表に二上武生先生が至って興味を示され、学生にいろいろな業界で働く可能性があるということを伝えたいということで私に特別講師の依頼があり、今回それが実現したのでした。



特別講義を行う赤嶺副会長

講義は、「ロジカルライティング」という講座で、各界の専門家から話を聞き、ノートテイキング、レポーティング（要約）のロジカルな組み立て方法を学ぶ授業の一環として行われました。二上武生先生からは、私が辿ってきたキャリアと、そこにおいて大事にされてきたことをお話してくださいとのことでしたので、私の海技者としては稀有なキャリアを写真や映像を用いながら紹介し、常に問題意識を持ち解決策を探ること、この問題意識を持つことに通じますが常にハングリー精神を持ち続けたことがこれまでの人生にプラスに作用したと体験を話しました。



特別講義全景

このことに学生さんから矢継ぎ早に質問を浴びることになり、学生さんの熱心な勉学態度には感心させられました。

また講義が午後の眠気を誘う時間帯でしたが、居眠りをする学生さんは見受けられず、真剣に講義を聞いてくださいました。この講座が話を聞きながらノートテイキング（社会に出たときに、打合せ等でちゃんとメモをとっていく練習）という課題を持っていたからかも知れません。因みに、私の講義に対して学生さんに出された課題は、「技術を学ぼうえで、日々の姿勢として、どんなことが大切だと考えますか。もっとも大切だと思うことをひとつあげ、その根拠とともに説明しなさい」（600字程度）でした。

今回の講義には、もうひとつの目的がありました。それは、海事普及と海への誘いです。全船協の事業のなかに公益活動として海や船、海に関連する仕事の魅力をお伝えし、理解を深めていただくための講演会開催があります。

工学院大学という海と関わりのない大学での講義でしたが、学生さんたちには新鮮味とともに海や船に興味を感じたようでした。私が原子力船「むつ」改造の艦装船長であったこともあり、日本に原子力船が存在していたことを知らない世代の学生さんからは、原子力船の質問が出ました。今社会でクローズアップしている環境問題からの質問であったのでしょうか。議論するには時間がなく結局後日回答することで講義を終えました。

またこの講義に出席されていた教員の方からは、「船を知らない学生が多い。船の基本についてもっと詳細に説明してほしい」と要望を受けました。こうした質問や要望が出ることから、講義の所期の目的は達成されたのではないかと考えています。

今回の講義で400名の学生さんと4名の担当教員の方に、全船協の存在を知っていただきました。全船協が社会に認知されるためには、海事社会だけでなく広く一般社会へ活動を伝えていく必要性を今回の講義が示唆しているといえるでしょう。

海事トピックス

全日本海員組合定期全国大会／安倍首相が祝電／「日本人船員確保に全力」

安倍晋三首相は10日に開幕した全日本海員組合の定期全国大会に祝電を送り、内閣改造を経て掲げる政策スローガン「一億総活躍社会」に関し、「成長戦略を実行し、国民の皆さんが真に実感できる経済の好循環社会を創出する。そのため、海運や水産業を支える日本人船員の確保・育成に全力で取り組む」との指針を表明した。

電報は自民党総裁名義で、大会初日の本会議場で事務局が代読。同大会にはこのほか、石井啓一国土交通相、塩崎恭久厚生労働相ら閣僚や政党首脳陣が祝電を送った。

(日本海事新聞2015年11月12日付け)

都立大島海洋国際高校訪問報告書

相談役 本望 隆司

- 日時 2015年9月19日(土)～20日(日)
- 訪問者 本望隆司(相談役)
- 訪問先 東京都立大島海洋国際高等学校(伊豆大島にある水産系高校)
- 面会者 千葉勝吾校長、
船員志望3年生 5名
- 目的 ①船員志望者に海運の状況や船員の就職状況を説明する。
②全船協の説明をし、準会員を募る
③「船しごと、海しごと」(¥2,000)(商船高専のプロジェクトで本協会も参加して作成した海運・船員の入門書)の販売
④学校側との情報交換



訪問経過

同校は19日～21日まで、海国際(学園祭)を開催するとの情報を得たので、本協会の事業計画 **6. 会員獲得と会の活性化** ハ. **水産系高校、海上技術学校と就職状況等の情報交換を通して準会員・正会員への入会を図る。**に基づき、上記目的の4項目を実施すべく訪問を行った。

- 1) 訪問の背景 本校では、昨年12月に2年生の海洋系学科が、練習船乗組員を確保出来ず航海実習ができない事態となり、東京都教育委員会から本協会に人材募集の依頼があった。他方、当該学生達による航海実習計画の実施を求める活動等が「全日本内航船員の会」(事務局 松見氏・本協会の理事)の知るところとなり、その情報も含め筆者が学校からの相談を受けて同校を訪問。「乗組員さえ確保できれば実施する」との校長の意向を確認した。本協会としては紹介に最大限努力したが、給与面や雇用条件などで適当な人材を紹介できなかった。最終的に東京都として乗組員をそろえて実習を成就した(実習は4月になり学生は3年生となっていたが)。今回の訪問は、その時の校長や学生諸君との交流実績から実現できた。

なお、昨年12月に訪問の際、大島町長にも面会し実情を訴えたが、その際「全日本内航船員の会」からの町長あて文書を持参したので、参考までに文末に掲載するので参照の程。

- 2) 9月19日の内容 「海国際」初日の19日はカッターレースである。本校では毎年波浮港内で学生・教員と保護者の参加によるカッターレースを行っている。校長は「校内でカッターレースを行っている学校は少ない。教科にカッターの時間を取っているのは1年生のみである。2・3年生はいわばぶっつけ本番である」との話であった。



接戦のカッターレース優勝決定戦

優勝は、3年B組（前記の航海実習ができないことを世間に訴えて実現したクラス）である。さすが積極的で行動的な彼らの実力がいかんなく発揮された結果であった。

- 3) 9月20日の内容 「青春に海と祭りはつきものだ」と題して校内での展示・舞台発表と食品販売が行われた。運営はすべて生徒の自主性で行われている。学生たちはそれぞれの役割で忙しく走り回っていた。



カッターレース優勝を喜ぶ3年B組の学生

4) 学生との懇談

船員志望の3年B組の学生5名が集まってくれた。学生たちは海国際の役割分担で忙しく走り回る中で、私の話を聞く機会をつくり集ってくれたことに心より感謝する。

このような交流のきっかけを与えてもらった「全日本内航船員の会」の協力にも感謝する次第である。

5) 上記4項目の訪問目的の結果

- ①海運の状況や就職状況を説明した（本校は3年制で小型以外の海技免状は取れない）。船員志望者は海技免状をどのように取得するかにより、進学の方針を決める必要があり、それらについてアドバイスをした。各自の希望は外航希望者。資源探査船希望者（この部門は、船員のみでなく調査員の道があることも説明した）。水産大学校希望者（「商船に就職できるか」との質問が有り、十分可能と回答した）、海洋大を受験希望者（万一受からない場合は部員で働いて海技免状取得可能かとの質問が有り、海大へ入学が必要だが可能と回答した）。RORO船の仕事内容の質問などがあつた。どのような進路を取るにしろ「1級海技士免状の取得を是非意識してほしい」とアドバイスした。本日は短時間で全て答えきれないので、もっときめ細かな対応が必要と感じた。
- ②準会員加入のお願いをし、5名全員が加入してもらった。
- ③「船しごと、海しごと」の販売は初めての企画として行つたが販売出来なかつた。割引価格で2,000円としたがやはり学生には無理であつた。
- ④学校側との情報交換に関しては、前記のカッターレースの件で校長の話を聞くことが出来た以外は、学園祭の最中で忙しい中なので話をする事は遠慮した。

以上

[町長あて要請文]

平成26年12月16日

東京都大島町 町長殿

全日本内船員の会 事務局 松見 準

はじめまして、「全日本内航船員の会」事務局の松見と申します。
日本人船員の「未来」と「安全」のための活動を展開する中で、(一社)全日本船舶職員協会の理事にも就任しております。

東京都大島につきましては、2013年10月16日の台風26号による未曾有の土砂災害があり、その後の復興計画にも力を注いでおられるところと存じます。お忙しい最中ですが、町長にご相談、ご連絡させていただきたい問題がございます。

現在、東京都立大島海洋国際高校で実習船の船員の確保に失敗し、予定されていた乗船実習が実施されていない事態となっている問題についてであります。

東京都教育委員会が実習船の船員確保のために動いてくれているという情報も届いていますが、解決には至っていないのが現状です。日本人船員の不足問題は、海運産業界でも年々深刻さを増している問題であり、今回、大島海洋国際高校で起こってしまった「予定されていた乗船実習が、船員確保の失敗で実施できない」という事態は、これからも、全国のどこの海洋高等学校や水産高等学校でも起こりうる問題ではないかと心配しております。そのようにならないために、全国でどのような仕組みが必要なのか、当面の解決策として他の水産系の高等学校からの船員の融通は可能なのかなど、問題解決のために東京都と折衝すべきと考える船員OBの声も聞こえてきました。まずは地元の町長にこの問題にご理解いただくことが重要であると考えております。

また、私自身は町長には特別な期待を込めてお願い申し上げるところがございます。大島町は離島であり、その町長さんが大災害と災害対策の中で「島外の支援力と島の地域力で、この難局を乗り越えましょう」と呼び掛けているのを知り、これは島国である日本国が共通して持っている極限下の真実であり、国際社会で島国が生きていくためのヒントであるとも日々感じているからです。

大島で高校生活を経験する学生さんたちが島で何を学ぶのかを考えた時、たとえ将来彼らが船員という職業を選んでくれなかった場合でも、島での物流や様々な交流の中で、航路や船員の重要性をしっかりと認識できる大人になってくれる事に強く期待しています。その意味でも、大島海洋国際高校に進学した学生たちに対し、予定していた乗船実習が実施されない状況は、この理念を大きくけがす問題だと感じるのです。-

私が、乗船実習が実施できていない事実を知ったのは、大島海洋国際高校の学生自身がネットの署名活動を開始した時でした。インターネットのフェイスブックで連絡をとると、非常に優秀な学生さんです。この問題は、本当は大人たちの問題であると感じた私は、すぐに恥ずかしい気持ちになりました。大島にはこんな学生がいるのか。離島であっても、境界の無い情報インフラを持つ時代に、問題解決のために島内外へ向けて発信をする学生の姿勢に、川島町長が示された防災対策のあり方や行政としての対応に重なるものも見ました。

全日本内航船員の会の活動では、船員にはどのような感性や社会的な責任感が必要なのだろうかと考える機会が多くあります。船員不足の問題解決には、ただの数合わせ的な補充の実現がゴールのように、どうしても思えないからです。

私は最近になって、離島のアイデンティティがもたらす島民の現実的な思考や文化に、日本人船員の価値や船員を応援する社会文化の未来を求めていきたいと考えているようになってきました。この問題への町長のご対応にご期待申し上げ、お願いいたします。

ペリー箱館来航の図版を読む

北海道函館水産高等学校教諭 我妻 雅夫

1853年、4隻の黒船で日本にやって来たペリー艦隊は、翌1854年、再び来航して日本と日米和親条約を結んだ。その中に開港予定の港として箱館湊（現在の函館港）があり、ペリー艦隊はすぐ黒船5隻で箱館へ下見にやって来た。当時、蝦夷地の港として栄えていたのは、松前城がある福山港（現在の松前）と江差港であり、箱館は世界的には知られていなかった。

ペリー艦隊は江戸湾から太平洋を北上し、津軽海峡に入り、箱館湊に入ってきた。入ってくるなりペリーは箱館の港としての素晴らしさに「Oh wonderful!!」と感嘆の声を発したという。

ペリー艦隊滞在の様子は米国側では「ペリー提督日本遠征記」に、日本側では小島又次郎が「亜墨利加一条写」にまとめたものがある。どちらも文と図版から成り、興味深い内容が潜んでいる。本稿では、「ペリー提督日本遠征記」の図版に潜んでいる興味ある内容について記す。

この度も投稿の機会を頂戴し、心から感謝申し上げます。投稿の度に申し上げますが、筆者は歴史研究者ではなく、単なる物好きの素人です。文中、多々誤りがあると思いますが、ペリー箱館来航に関する“物語”としてお読みいただければ幸いです。

2 「ペリー提督日本遠征記」に綴じられている「THE HARBOR of HAKODADI」から

箱館湊に滞在したペリー艦隊は、艦載艇をフル動員して箱館湊の水深、底質、磁北の偏差等を調べて、「THE HARBOR of HAKODADI」(図1)を作成した。この海図の中に潜む興味ある内容をいくつか紹介する。

2-1 この海図の測定の基点はどこか？

図1に△の中に○が書かれた印がある。ここが測定の基点であるという。興味深いのは、この基点の経度である。測定の基点の経度は「140° 47' 40" W」と記されてある。函館は「西経(W)」ではなく「東経(E)」である。なぜペリーの海図には箱館を「西経(W)」表記したのか。答えは……、習慣がそうさせたと思われる。

まず、アメリカ海軍の将兵が普段生活している場合は「西経(W)」であるために、「西経(W)」表示が無意識に行われたようだ。なぜならば、ペリー艦隊が箱館滞在中、「THE HARBOR of HAKODADI」と同時に、エトモ湊(現在の室蘭港)の海図「THE HARBOR of ENDERMO」も作成しており、こちらの測定の基点は、きちんと「東経(E)」と記されているからである。

また、幕末期に使用されていた地図などの緯度・経度は、グリニッジ表示が緒に就いたばかりで、米国海軍ではワシントン0度とした地図も同時に使用していたのだから、ケアレスミスの可能性は大きかったと思う。

それにしても、150年経っても「W」の文字が残っているとは、この「W」を書いた士官は、さぞ苦笑いしていることと思われる。ちなみに、ペリー艦隊が測定の基点とした「Kamida Creek(亀田川)」河口は、その後、箱館にやって来る外国船のよき洗濯場で

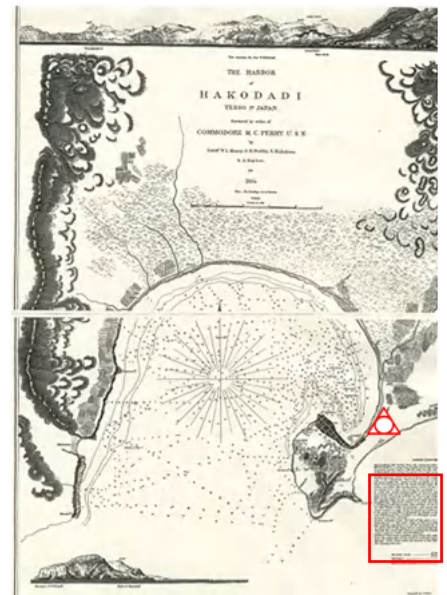


図1 THE HARBOR of HAKODADI
(函館中央図書館蔵)



図2 ペリー小公園(函館市万代町)

あり、清水採取場所となった。このことを今に伝えたいと、函館市万代町商工会の人たちは、ペリー艦隊の測量の基点と思われる場所に、自力で「ペリー小公園」(図2)を作り、ペリー艦隊の事績を通りすがりの人たちに静かに訴えている。この公園の企画から土地利用の手続き、花壇整備、パネル作りを商工会の長老の人たちが行っている。函館にいらっしゃった時は、ぜひ、この公園にも足を運んでいただき、「ここがペリー艦隊、最初の上陸地か……」と想いを馳せていただきたい。

2-2 海図に記された測量の基点は、GPSを使用する現在、どの場所になるか

「西経」表記の問題が解決したとして、次に興味が出るのは、「測量の基点は現在のどこか?」ということである。「THE HARBOR of HAKODADI」に記載されている「北緯 41° 49'、東経 140° 47' 40"」を国土地理院地図情報で調べると図3のようになる。

151年前にペリー艦隊が測量の基点とした場所(図3の★印)は、国土地理院の地図情報によれば、★で示す位置になる。距離にして約5 Kmのちがいである。このちがいはどこに原因しているのだろうか。



住所: 北海道函館市東山町 (付近の住所。正確な所属を示すとは限らない。)
41度48分59.82秒 140度47分40.57秒

図3 測量の基点の昔と今

(国土地理院地図情報から引用)

2-3 ペリー艦隊当時の磁北は、現在さらに何度西に偏ったか

ペリー艦隊箱館来航当時(1854年)の磁北の偏差は「THE HARBOR of HAKODADI」に、「Variation 4° 30' W」と記されている。2005年、海上保安庁発行の函館港海図には「磁北の偏差8° 55'」と記されているから、ペリー艦隊が箱館に来航してから141年を経過して、磁北は当時より4° 25' さらに西に偏ったことになる。この数字を大きいと捉えるか、小さいと捉えるかは人それぞれだが、筆者は「地球は、たった141年でこんなに変化する」と捉えている。

2-4 箱館湊の測量・測深

ペリーは未知の港「箱館」へ、まず帆装艦3隻を派遣し、箱館湊の測量・測深をさせた。箱館湊への安全な入港法を先遣隊が割り出した後、ペリー提督等が座乗する蒸気艦2隻が箱館湊に入ってきた。用意周到である。

「ペリー提督日本遠征記」には、箱館で短艇からハンドレットを投げる寸前の水兵を描いた銅版画が掲載されている(図4)。下田港の場合も、やはりハンドレットを投げる水兵の銅版画が残っている。独立国の地先であろうとお構いなしにペリー艦隊は測深したことを物語る絵である。

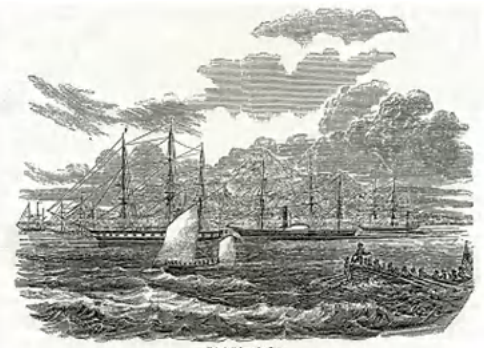


図4 箱館湊の測深をする短艇(右)

(函館中央図書館蔵)

2-5 「Sailing directions」(水路誌)を読む。

図1の四角形の枠内は「Sailing directions」(水路誌)で、箱館湊に安全に入港する方法が記されている。入港法の指示を要所、要所抜粋してみる。

指示1:「……both of a mile to avoid the calms……」

「(函館山に遮られる風を避けるため)1マイル離して帆走せよ!」

函館山は標高約300mであるから、標高の6倍に相当する1マイル(1,852m)離して帆走する指示は理にかなっている。今でも、函館山に隣接する西側海域は、「山背泊(やませどまり)」と呼ばれて、風浪を避ける絶好の海域となっている。

指示2:「……steer for the sharp peak Komagadaki……」

「(函館湾からほぼ真北に見える)駒ヶ岳の鋭峰目指して帆走せよ!」

指示3 : 「・・・east peak of the Saddle opens to the westward of the Round Nob・・・」

「袴腰岳東峰が庄司山の西側に来たら、それら2峰の見通し線方向へ帆走せよ！」

指示4 : 「・・・keeping them well open until the centre of the sand hills on the isthmus bears S.E.byE3/4・・・」

「指示3の針路を保ち、3つの砂山の真ん中が南東方向に見えたら、その方向に進め。(最良の錨泊地にたどり着ける。)」

本校は、平成21年に北海道教育庁所属の大型漁業実習船「若竹丸」(吉野船長)にお願いして、実際に指示どおり走ってみた。その結果、函館港に入港できるばかりでなく、指示3と指示4のコースは、現在の函館港第1航路に導く指示であることがわかった(図5)。このことを割り出した「若竹丸」は、ペリー箱館来航の歴史学に多大な功績を残したと思う。書物から得た情報を、実際にやってみて、初めてわかることの好例である。

尚、当日、若竹丸は函館水産高校PTA会員と新聞で公募した市民有志を乗せて、秋晴れの下、ペリー艦隊が辿ったと思われるコースを、指示に出てくる景色を確認しながら走った。乗船した市民の中には北海道大学の練習船「おしよろ丸」の元船長だった増田先生のお顔もあった。この時撮影した景色を図6～図8に示す。

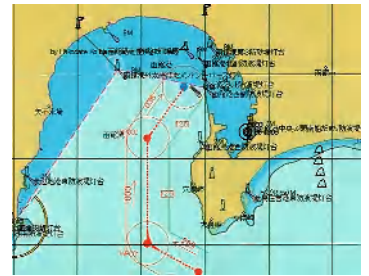


図5 H21ペリーロード航跡図 (実習船「若竹丸」提供)



図6 1マイル沖から見た函館山



図7 函館湾から見た駒ヶ岳



図8 袴腰岳と庄司山の見通し

3 「ペリー提督日本遠征記」に描かれた銅版画を読み解く

図9は、ペリー艦隊の乗組員と幕府役人が、函館山の一峰である薬師山に登り、そこからの眺望を銅版画にした絵である。

この絵の中には、前述した指示1～4に登場する山が全て描かれてある。石川啄木が詠んだといわれている「砂山」(ペリー艦隊は「Sand Hills」と呼んだ)も大きく黒々と描かれている。この「黒々」が大切で、この砂山を構成する砂は、今でも砂鉄を多く含み、黒々とした砂である。啄木がこの黒い砂浜、大森海岸を詠んだといわれている、「東海の小島の磯の白砂に 我、泣きぬれて 蟹とたわむる」の中の「白砂」は、本当は「黒砂」である。詩人「啄木」の文学者独特の色彩感覚が「白砂」とさせたにちがいない。

図9のもうひとつの話題は、図中の「薬師観音像」である。この薬師観音が祀られていることから「薬師山」と呼ばれたらしいのだが、この絵に描かれた薬師観音が驚くことに現存している。

図10は函館市湯川町にある湯川寺(とうせんじ)境内に現存する薬師観音である。この観音像は、1832年に高田屋嘉兵衛の弟、



図9 薬師山からの眺望 (函館中央図書館蔵)



図10 湯川寺にある薬師観音

金兵衛の持ち船で箱館に運ばれ、翌年、函館山に安置されたものだが、明治 32 年に函館山全山が陸軍の要塞になる時、函館山の裾野に下ろされ、大正 3 年に湯川村に遷座された。その後、都市計画による道路拡張工事や変更工事により放置されたり、管理する者がいなくなり、湯川寺三世住職戒蔵上人が引き取り、現在に至っているとのことである。(※湯川寺の解説文から引用)

横浜の横浜開港歴史資料館中庭には、1854 年の日米和親条約締結で上陸したペリー艦隊を見た「玉楠」(図 11)の子孫が今でも青々と生い茂っているが、函館の観音像も玉楠に匹敵する貴重なものである。



図 11 横浜開港歴史資料館の玉楠

次に図 12 である。この絵に描かれてある、海に点在するブイと左右に分かれて何かを引く水兵の様子から、地引網風景を銅版画にしたものであることがわかる。

さて、地引網をした場所はどこか。……。左右の列の間に川が海へ注いでいること。函館山が絵に描かれたように見える場所(図 13)から探っていくと、その場所は、現在の北斗市東浜 2 丁目、大野川(旧有川)河口付近(図 14★印)と推測できる。

ペリー艦隊は箱館の下見に來ただけでなく、箱館から沢山の動植物・鉱物標本を米国に持ち帰った。その中のイトウとモスソガイに言及すると、この 2 種は種の同定の結果、新種ということで、イトウには Hucho perryi という学名が、モスソガイには Volutharpa ampullacea perryi という学名がついた。もちろん「perryi」はペリー提督を顕彰してのネーミングである。ペリー箱館来航以来、今年で 161 年経つ。現在の函館にイトウの姿はもうないが、モスソガイはまだ七重浜に棲んでいる。イトウとモスソガイの 2 種によっても、161 年間の函館の自然環境の変化がわかる。



図 12 地引網をする水兵
(函館中央図書館蔵)



図 13 図 12 と同方向から見た函館山



図 14 地引網した場所(★印)

4 「海のペリーロード」再現航海の実施

ペリー艦隊の箱館入港コースは、函館水産高校によって「海のペリーロード」と名付けられ、平成 21 年度に続き、平成 26 年度「若竹丸」(松代船長)で、平成 27 年度「北鳳丸」(澤田船長)で再現航海が実施された。実習船並びに水産高校ならではの企画に育っている。

平成 26 年度の航海は、ペリー艦隊が「ブラント岬」と名付けた「汐首岬」沖から津軽海峡を西進する長距離航海だった。

平成 27 年度は、函館水産高校 PTA 会員の他に、管内高校の社会科教員にも乗っていただいた(図 15)。「ペリー箱館来航は授業で扱うが、普段、見慣れている函館周辺の景色と入港法の間、このような関係があるとは知りませんでした。」という感想がほとんどであった。



図 15 海のペリーロード(H27)

「海のペリーロード」が函館の新たな観光ルートに育ってくれることを夢見て筆を置く。

社会人によるキャリアガイドス

都立小山台高等学校 出前講座

全船協名誉会員・海事補佐人 田中善治

会 場：都立小山台高校教室

講座日：平成 27 年 10 月 25 日（日）10:30~11:30

本校での講演は平成 20 年 1 月に初めて以来今回で 8 回目である。この講座は「NPO 法人キャリアのきっかけ（代表 川上氏）」が企画されたもので、今回は私の他に

○ 「地図に残る海外での仕事～台湾新幹線からビルマ、イラクまで～」

三菱プラント建設（株）主幹 大浜伸幸氏

○ 「ヒット曲のできるまで～全ては一人の情熱から始まる」

ユニバーサルミュージック合同会社 会長 小池一彦氏（小山台 OB）

○ 「船が日本を支える」

全船協名誉顧問・海事保佐人 田中 善治

の三講座が 10:30~11:30 の間それぞれの教室に分かれて同時に開催された。生徒の受講は自由で、自分の希望する講座に参加できるという。

この講座はこれまで土曜日午前中におこなわれていたが、今回は日曜日の午前中になったことでどの教室も受講者は少なかったようだ。

私は、資源の少ない島国日本は世界中から原料を分けてもらい、技術力で世界に通用する製品を作って買ってもらうことで活路を保持している、ということバックボーンにして演題を「船が日本を支えている」とした。資料のコピーを配り、スライドや世界地図・地球儀を使って進めた。受講生は一年生 男女それぞれ 3 名、計 6 名だった。

資料は日本海事広報協会発行「SHIPPING NOW 2015~2016」「海と船なるほど豆辞典」「数字でみる日本の海事」その他長年にわたり役にたちそうなものを集めてきた中から選んで作成した。

受講生は船や船員のごことはほとんど未知の世界のようで、最初は何の話だろうかと訝（いぶか）げな様子うかがえた。特に「船が日本を支えている」という演題が、本校に限らず初めのうちは不思議に思われるようだ。話を進めていくうちに、だんだん興味を持って聞いてくれているなという態度を察知することができた。

質疑応答では

* 一番長い航海は？

* 日帰りの航海はあるか？

* 海に出てから何をしているのか？

* 船から下りたら何をするのか？

等々の質問があり、もちろん丁寧に答えたが、先述したようにほとんど未知の世界をわずか一時間でお話するには自ずと限界があるようだ。



田中講師と受講生

海事代理士という仕事

田口 はるか

こんにちは、2009年に東京海洋大学航海科を卒業しました、田口はるかです。

2014年の海事代理士試験を受験、合格し、現在は他の仕事と並行して海事代理士としての活動を行っています。

海事代理士の資格を取得した理由は、子育てをしながら、地方で、船や海に係る仕事をしたいと思案しており、海事代理士であればそのようなことが可能なのではないかと考えたためです。

みなさん、海事代理士という仕事をご存知ですか？一度は聞いたことがある単語かとは思いますが、その内容については詳しく知らない方も多いのではないのでしょうか。

海事代理士になるには、まず、国家試験である海事代理士試験に合格する必要があります。試験は一次試験が筆記試験、二次試験が口述試験という構成で、筆記試験は憲法、海商法、船舶法、船員法、船舶職員及び小型船舶操縦者法、海上運送法、港則法、造船法、海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律等 13 科目、口述試験は船舶法、船舶安全法、船員法、船舶職員及び小型船舶操縦者法の 4 科目です。

先輩海事代理士の皆さんのホームページに載っている試験対策や受験体験記を参考にしながら、海事六法と参考書を使用して勉強を進めていきました。

学校で学んだ科目もありましたが、今回、試験ということで改めて法律を熟読し理解する努力をしていく中で、今まで漠然としか分かっていなかった物事の根拠を知ることができました。そのため、大変でしたが楽しみつつ多くを学ぶことができました。

海事代理士は、「海の司法書士」「海の行政書士」とも呼ばれ、海事に関する行政機関への届け出や申請等の手続きを代行するのがその仕事です。

船舶を運航するには、行政機関との間で様々な手続きが必要となります。手続きの種類によって書類の提出先も異なりますし、添付書類が膨大な量になることもあります。海事関係法令や周辺法令を熟知していなければスムーズに行うことが難しい手続きが多いのです。

そこで、海事法令の専門家である海事代理士が、行政機関に対する様々な手続きや必要となる書類の作成を代行し、迅速で正確な手続きを行うことにより、船舶が円滑に、そして安全に運航できるよう支えています。

海事代理士の業務は多岐にわたります。身近なものとしては、海技免状や小型船舶操縦免許証の更新、海技試験の受験申込手続きの代行、船員の雇入れや船員手帳の交付・書き換え等の代行業務があります。

また、船舶が建造された際の登記手続き、所有者の変更があった場合の所有権移転登記の手続き、定期検査・中間検査等の船舶検査に関する手続き、海難が発生した場合の報告手続き、海上輸送事業や港湾荷役事業、造船事業を始める場合の認可手続きなどの代行も行います。

同じ海事代理士という仕事の中でも様々な分野があり、一つの資格で異なる色の仕事を請け負えるというのもこの仕事の魅力であると感じています。

海事代理士としての業務を始めてまだ日が浅く、現在は営業活動の真っ最中、というところです。

全国対応しておりますので、何かありましたらどうぞご連絡ください (taguchi.haruka@gmail.com)。

手探りですが、いただいたご縁を大切に、海事代理士業に本気で取り組んでいきたいと考えています。

海運業界の発展や船舶の安全運航に貢献できるよう、日々研鑽していきますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



平成27年度商船高専卒業生進路状況

事務局

平成27年度商船高専卒業生進路状況																		
		富山			鳥羽			広島			大島			弓削			5校合計	合計比率
		航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科	航海	機関	専攻科		
卒業 者数	本科	22	17		20	14		23	20		21	17		14	10		178	91.0%
	専攻科			2			2			7			4			3	18	9.0%
	(女子内数)	(5)			(4)	(2)		(1)		(1)	(2)	(1)	(1)	(1)			(18)	9.0%
	合計	41			36			50			42			27			196	100.0%
就職 状況	外航	7	1		3	2		1	1		4	3	1	4		1	28	14.3%
	内航	4			3	2		14	13	1	6	6	1	3	6	2	61	31.1%
	フェリー	1			1	2		2	4	2	1	3		5			21	10.7%
	探査船(海底資源)				1												1	0.5%
	港湾・倉庫	2			1	1											4	2.0%
	海運関連																0	0.0%
	造船・造機		1	1	2	1			2						2		9	4.6%
	海事関連団体	2	2														4	2.0%
	官公署			1			1								1		3	1.5%
	その他陸上				2	6	1	1		2	3	4	1				20	10.2%
	進学 大学	4	5		1			3		2	3	1	1	1			21	10.7%
	専攻科	1	4		3			1			1				1		11	5.6%
	SECOJ										2						2	1.0%
	その他(未定含む)	1	4		3			1			1			1			11	5.6%
小計	22	17	2	20	14	2	23	20	7	21	17	4	14	10	3	196	100.0%	
																合計	196	100.0%
	外航	8	(19.5%)		5	(13.9%)		2	(4.0%)		8	(19.0%)		5	(18.5%)		28	
	内航	4	(9.8%)		5	(13.9%)		28	(56.0%)		13	(31.0%)		11	(40.7%)		61	
	フェリー	1	(2.4%)		3	(8.3%)		8	(16.0%)		4	(9.5%)		5	(18.5%)		21	
	海上職	13	(31.7%)		13	(36.1%)		38	(76.0%)		25	(59.5%)		21	(77.8%)		110	(56.1%)
	全卒業生	41	(20.9%)		36	(18.4%)		50	(25.5%)		42	(21.4%)		27	(13.8%)		196	
	官公署	1	(2.4%)		1	(2.8%)		0	(0.0%)		0	(0.0%)		1	(3.7%)		3	
	海事関連	8	(19.5%)		7	(19.4%)		2	(4.0%)		2	(4.8%)		2	(7.4%)		21	
	その他陸上	4	(9.8%)		9	(25.0%)		3	(6.0%)		8	(19.0%)		0	(0.0%)		24	
	進学(大学/専攻科)	14	(34.1%)		4	(11.1%)		6	(12.0%)		6	(14.3%)		2	(7.4%)		32	
	未定	1	(2.4%)		2	(5.6%)		1	(2.0%)		1	(2.4%)		1	(3.7%)		6	
	陸上職	28	(68.3%)		23	(63.9%)		12	(24.0%)		17	(40.5%)		6	(22.2%)		86	(43.9%)

今年度の進路状況の特徴

1. 船員を志望した卒業生の内、外航海運が 25.5%、内航海運が 55.5%、フェリーが 19%の就職となる。
更に海上職に探査船、SECOJを加えると 57.7%になり、港湾・倉庫への就職を加味すると卒業生総数から見ても 68.4%の就職状況になり、「就職が少ない」という評価は当たらない。
2. 大手外航船社によるエネルギー油送船用海上特定職（乗船勤務のみ）の採用が更に増えることを期待したい。（今回は5名のみ）
3. 大学/専攻科へ進学する学生も増えており、キャリア志向も高まって来ている。

優秀な人材採用へ強い意欲

海運・造船業界 求人動向 11月現在（キャプラン提供）

海事新聞 11月掲載記事

総合人材サービス大手パソナのグループ会社キャプランは、11月現在の海運・造船業界の求人動向をまとめた。それによると、バルカー低迷の影響を受け、採用について様子を見ようとする動きと、今がチャンスと見る動きが交錯している印象。とはいえ規模が大きいバルカーマーケットの求人需要は安定して多く、企業の優秀な人材への採用意欲は高い。管理系職種（人事・総務、経理・財務など）でも、わずかだが問い合わせが増えている。従来、日系の海運会社では管理系部門の人数を抑えてきたが、ここ数年で多少余裕のある人員計画（若干の増員計画）を考え始めている。選考では経験や年齢のほか、仕事に対する考えや企業との相性も慎重に確認。リーマン・ショック以降の求人動向として、年末から年始にかけて求人が急増したが、今年に限ってはその傾向が見えてこない。各分野の状況は次の通り。

【営業系－船舶運航管理、用船など】

商社系海運会社の採用活動が活発だが、バルカーからタンカーへシフトチェンジしようとする動きに伴い、タンカー人材への問い合わせや依頼が増加している。商社の保有船舶増加から、ポストフィクスチャー業務（用船契約の管理、用船料の支払いの計算、入出港や荷役に関するさまざまな手続きなど用船者に問題なく船を使用してもらうための業務）の求人、特に次世代の管理職層（経験10－20年程度）の採用が増加している。組織構成を考慮した動きが特徴的で、経験に加え、年齢・キャリアバランスも慎重に企業は検討している。若干だが、社内での育成・教育を目的とした求人が出ているものの、前職経験や英語力などハードルは高い。

【技術系－工務・海務監督】

長らく採用難が続いていた工務監督の求人に対し、ほんのわずかだが人材を採用できている企業が出始めているが、まだまだ工務監督は不足している。タンカー経験がある海務監督の求人依頼急増に加え、特徴的なものでは安全管理の責任者候補として実際に乗船し現場指導できる船長経験者など、高額年収の求人も出ている。

重量物輸送に関する求人も依然として活発で、外航船航海士経験（5年程度）のみから、監督実務経験10年程度まで幅広い層での採用ニーズがある。工務・海務ともに、人材不足と技術力継承の点から、採用年齢が上昇（60代の採用も活発）、船長や機関長経験を問う求人も多い。

【その他－代理店業務、船級など】

代理店業務、船級の採用も継続して活発。造船会社での設計経験や、海運会社で外航船乗船経験を有する人材を積極的に採用したいという企業の意向は変わっていない。

将来の夢・就きたい職業について 東京都立大島海洋国際高校在学準会員の声

事務局



3 学年 市東 智明

①大島海洋国際高校に入学してよかったと思うこと

私は、高校時代から船員として必要な知識を身に付けることが出来たという貴重な経験を積むことができました。また、船に関する勉強だけでなく、海洋に関する勉強もすることができ、広い視野を持てるようになりました。

②学生生活の思い出

本校は全寮制の学校であるため、常に仲間と協力しながら過ごした日々は、一生の宝物です。日頃から集団生活を送ることで、様々な問題を仲間と一緒に乗り越えてきました。

これらの経験は、今後船員として働いていく上で必要になると思いました。

③実習船での思い出

乗船実習では、主に船員としての基礎を身に付け、責任を全うすることの大切さを体得しました。どんな船でも一人の力では決して動かすことは出来ず、一人一人が自分の仕事にしっかりと責任を持ち、全うすることで初めて動かすことが出来ると感じました。

また、海という大自然を相手に、いつ何が起こるか分からないという緊張感の下、より実践的な経験を積むことが出来ました。高校生という社会的にまだまだ未熟である中で、このような経験を積むことができ、船員の卵としてだけでなく、これから社会に出ていく者としても大変勉強になりました。

④将来の夢・就きたい職業について

私は将来、安全で確実に人や貨物を輸送できる船員になり、海運を通して人々の生活を支えていきたいと考えています。

高校三年間、離島での生活を経験しました。それらの生活は、本土から貨物を輸送する海運によって成り立っていました。そのような経験から海運の重要性を知り、自分も人々の生活を支えられる船員になりたいと思いました。

私は、来春より国立清水海上技術短期大学校にて、船員としての資質を磨き、一人前の船員になれるよう精一杯尽力いたします。将来的には、日本の海運業界に大きく貢献し、人々の生活を支えていきたいと思えます。

3 学年 高久 皓矢

①大島海洋国際高校に入学して良かったと思う事

学校や寮での高校生活を通じて、かけがえない一生の友人ができました。実習や日々の生活で、苦しく辛い時を共に過ごし、乗り越えてきたことで、他の学校ではできない深く固い絆で結ばれた友人を得ることができました。

それぞれの進路に進んでも、お互いを尊重しあい、助け合えるような最高の友人を作ることができた事が、大島海洋国際高校に入学して良かったと思う事です。

②学校生活の思い出

毎朝決められた時間に起き、決められた時間で朝食を済ませ、学校へ行く。

学校から帰ってきて、風呂の時間は限られており、夕食の後は毎日3時間自習時間がある。そして、決められた時間に消灯。上下関係は絶対で、規律はとても厳しい。はっきり言って、生易しい寮生活ではありませんでした。それでも、最高の友人たちと些細なことで大笑いしたり、週末にパーティを催すなど、厳しい空間の中でもとても楽しい3年間を過ごすことが出来ました。また、厳しい寮生活はどこか船内生活に似ているところがあり、限られた空間で工夫を凝らし、精一杯楽しく過ごした経験は必ず生かされると考えています。

③実習船「大島丸」での思い出

3年次に行った航海実習で、東京→沖縄→小笠原で航海をしたことが1番の思い出です。操舵や航海当直、CTDを用いた海洋観測や気象観測などを行い、船員に必要な船舶運航に関する知識や技術を学ぶことができました。

海が時化している時の課業は本当に苦しくて、辛いものでしたが、それ以上に作業が楽しくて、特に操舵をしている時は酔いを忘れるほどでした。

実習を通じて、実学的に船舶運航に関する知識や技術を深めることができた事は、必ず将来に生かされると考えています。

④将来の夢・就きたい職業

実習船の航海士になりたいと考えています。生徒と関わりながら、将来の海運業界を支える優秀な知識や技術を有した船舶職員の育成に貢献すると共に、後継者不足解消に尽力したいと考えています。



国際航海船 大島丸

- ・竣工 平成8年3月12日
- ・全長 56.28m
- ・幅 9.60m
- ・総トン数 497トﾝ(国際総トン数 738トﾝ)
- ・速力 最大 15ノット(航海時 12ノット)
- ・定員 乗組員 17名
教員 2名
生徒 24名

航海学習において年間約120日間使用

(写真・同校HPより)

商船高専生活の思い出

大島商船高専

門脇 元

商船高専に在籍させて頂いた5年6か月は、私にとってかけがえのない日々となりました。

在学中は、学寮や部活での思い出が多いです。1年生の間は上級生に細かいことで指導され反感を持っていました。しかし上級生になると、後輩の指導に対する大きな責任と使命感を背負うようになり、今まで先輩から受けてきた指導の数々が、実はかけがえのないものであったと実感しました。反感を持ってしまった自分を恥じると同時に、自分が後輩から反感を受けたとしても、後輩に同じ経験をさせてあげたいと思うようになりました。下と上、両方の気持ちを体験できたことが、商船高専に入って良かったと思うことです。

印象深い思い出は、1年生最後の春休み、合宿で学寮に寄宿していた時のことです。当時私はプライドが高く、同級生の中で疎外されていました。そんな折、部活を終え部屋で独りの私の元に、1人の同級生が来て一言、「お前とは5年間一緒のクラスだ。そんな風にしていたらいつまでもクラスに馴染めない。一緒に楽しみたいなら、お前はここで変わるべきだ。」友の心からの言葉でした。私はその言葉で、自分の気持ちに素直になれました。「自分は今から変わる。今までのことで僕に対して色々な感情はあると思う。申し訳ないけど、一旦フラットな目で自分を見て欲しい。今までごめん。」ここから同級生と一気に仲良くなり、楽しい学校生活を送ることができました。本音で語ることの重要さを感じた、いい経験をさせてもらいました。

航海訓練所では、“生きるか死ぬか”の経験ができたことが良かったです。この一線を超えれば死ぬ、という状況に至って、自分自身をより深く見つめることができました。そして何より、そんな状況を共に乗り越えた仲間との絆はとても深くなったと思います。

私は今後、東京海洋大学に進学させていただきます。「船乗り1人を育てるのに幾ら掛かるか分かっているのか!」、よく言われる言葉です。より深く商船を学び、これまで社会から受けたご恩を少しでも返せていける人材になると共に、日本国の発展と繁栄に少しでも寄与できるようになりたいです。



日本丸 於横浜港

以上

海事ニュース

ソマリア海賊ゼロ。東南ア取り締まり奏功／国際海事局報告

国際海事局(IMB)は2日、2015年の世界の海賊発生状況について9月末時点での統計を取りまとめた。被害件数はハイジャック(乗っ取り)15件、襲撃未遂21件、船上への侵入154件の計190件。海賊頻発海域であったアデン湾を含むソマリア沖での被害件数はゼロ。前年の経過と比較して平穏な数値となっているがIMBは西アフリカの潜在的なリスクの高さなどを根拠に油断しないよう警告している。

統計によると、東南アジアでのハイジャックの検挙報告は9月末までに2件にとどまり、海上保安機関の取り締まりによる抑止力が機能しているとみられる。

同地域ではタンカーから積み荷の貨物油を抜き取って転売をもくろむ「サイフォニング」の被害が報告されているが、インドネシアとマレーシアの海上保安当局からはプロダクトタンカーの襲撃事件に関与した犯罪組織を検挙したとの報告も行われているという。

単純に被害件数だけに着目した場合、国別の領海内での被害件数はインドネシアが最多の86件、次いでベトナム領海内の19で東南アジア各国が突出しているが、IMBは同地域では人身に影響しない窃盗などの軽微な被害の件数が多いことが主因だとの見方を示している。

一方で近年、リスクの高まりが懸念されているギニア湾では7-9月期中の1件の被害報告があっただけと表面的には良い結果が出ているが、IMBは独自の観点から「実際にはかなりの件数が発生していると確信している」と警鐘を鳴らしている。

(日本海事新聞 2015年11月9日付け)

四日市市/船員の減税申請を受理。海員組合「全国展開への第一歩」

三重県四日市市は19日、同市が国内で初めて導入に踏み切った外航船員・遠洋漁船員らを想定した住民税の減免措置について、実際の船員からの申請手続きを初めて公開した。申請の受理を受

け、申請者と同行の全日本海員組合幹部と面会した田中俊行市長は「港町として、港の発展の基盤となる船員の方々に対する税制の整備は高い公益性があると判断した」と導入経緯を振り返った。

同日、市役所を訪れて申請を行ったのは、同市市民で、大盛丸海運のリーファー船で三等航海士を務める田中友規さん(28)。主に大西洋で操業するマグロ漁船から冷凍マグロを国内に輸送する航路に従事。1航海約4カ月の航海が上陸休暇を挟まず年2回あることから、四日市市が定める「外航船舶に乗船して(中略)その勤務期間が連続して6カ月を超える」との規定を満たした。

減免の対象は個人市民税・県民税の均等割り部分で、年額計3000円が減額または還付される。

申請を終えた田中さんは「四日市に住民登録はしているけれども、職場は海の上で、帰国しても荷役があり市内にはほぼいない。これで他の人と住民税が同じなのか」という思いがあった」と減免措置の適用を喜んでた。

政府に対して住民税減免措置の解禁を働き掛け、四日市市の制度導入後には情報提供などで田中さんをサポートしてきた全日本海員組合は、市長との懇談の中で「他の自治体に先駆けて四日市市が導入を決断した意義は大きく、今後の全国への広がりへの第一歩と思っている」(立川博行政策局長)と謝意を表明していた。

(日本海事新聞 2015年11月20日付け)

◇航海訓練所がアドバイザー事業を内航用練習船「大成丸」で実施

航海訓練所と内航総連は11月16日と17日の両日、共同で練習船「大成丸」(3,990総トン)において、練習生に対して内航船社の船員経験者によるアドバイザー事業を行った。内航業界からのアドバイザーは、NSユナイテッド内航海運の2等航海士と2等機関士の2名が派遣された。

今回のアドバイザー事業は、平成24年3月の「船員(海技者)の確保・育成に関する検討会」報告で、内航船員の確保・育成へ向けて、船員養成に関わるステークホルダー間の、より一層の連携強化が必要と指摘。その一環として「即戦力が不可欠。そのためには内航海運事業者の現職船員が、教員として教育訓練に参画することが効果的であることから、海上技術学校・短大および航海

訓練所への教員派遣については、これまで以上の理解・協力を内航海運事業者に期待する」と提言していることを踏まえて実施された。

「大成丸」には現在、海上技術短大専修科の学生 113 名（清水校 12 名、波方校 76 名、宮古校 25 名）が乗船し、11 月 6 日に直近の寄港地である岩手県の宮古港を出港して瀬戸内海に入り 16 日に高松港に寄港、17 日には小豆島で仮泊した。その間、アドバイザーに出港作業、操船シミュレータ訓練、ディーゼル機関ピストン抜き出し作業などを見学してもらい、実習訓練の指導方法や内容に関するアドバイスを受けた。

なお、航海訓練所は来年以降も内航総連傘下 5 組合の船社から、順次アドバイザーの派遣を依頼するとしている。

◇3 級海技士（航海）筆記試験にクラス全員が完全合格。鹿児島水産高校の海上技術コース 3 年生 12 名

鹿児島県立鹿児島水産高校 3 年海洋科海洋技術コースに在籍する生徒 12 名全員がこのほど、3 級海技士（航海）の筆記試験を受験し、すべての科目で完全合格した。同校は昨年からの教員と生徒が一体となって試験に向けた取り組みを重ねてきたが「受験したクラス全員が完全合格するのは全国でも例を見ないのではないかと」と進路担当の八木泰浩教諭は胸を張る。

同校の全生徒数は 303 名。うち 2 年生から選択する海洋技術コースには、2 年生 11 名、3 年生 12 名が在籍している。これまでの海技士（航海）試験の受験状況は、平成 25 年度が 3 名受験して 1 名合格、26 年度が 13 名受験して 3 名が完全合格、3 名が科目合格だったことから、クラス全員が完全合格したことは全国的にも稀な快挙といえよう。

八木教諭によると、今年の試験対策は昨年からの開始。登校後に約 30 分の朝自習、放課後はコース職員が各分野を担当して 1 時間程度の夕補習を行ってきた。「法規」は海洋技術コース所属の教員 2 名、「運用」は計算問題と文章問題に分けて教員 2 名。「航海」は天文・地文・海図・その他に分けて教員 4 名が担当し、それぞれ指導。さらに補習後は「確認テスト」、試験直前には「模擬試験」を実施するなど徹底的に取り組んだという。

その成果として、このほど筆記試験に合格した

12 名のうち、6 名は内航海運業界へ就職（タンカー 2 名、RORO 船 2 名、フェリー 2 名）を希望。その他の 6 名のうち 5 名は進学、1 名は航海訓練所への就職を希望している。

◇民間完結型 6 級海技士、6 年間に 122 人が就職したが、4 割が海洋共育センター会員船社以外を選択

内航船員不足の緩和・解消のために設立された海洋共育センターと、船員の養成機関である尾道海技学院がまとめた民間完結型 6 級海技士（航海・機関）の入学・就職状況によると、新 6 級海技士（航海）制度が開始された平成 21 年度から 26 年度末までの 6 年間に 167 人が応募し、140 人が入学。このうち受講修了者は 132 人で、内航事業者の雇用船員が 23 人（17・4%）、一般からの転職者が 109 人（82・6%）だった。

就職状況を見ると、122 人（92・4%）が船員として就職している。ところが、本来は海洋共育センターの会員船社に優先的に就職先を紹介しているにもかかわらず、センター会員以外の船社に就職した者が 57 人（43・2%）と半数に近くを占めていることが分かった。内航総連が 10 月の政策委員会で明らかにした。

その理由は、①センターの事前アンケートで尾道海技学院の養成数を計画しているが、アンケート実施後、講習修了までの間に、船員を中途採用できたセンター会員が求人を取り下げしてしまう②講習修了後、就職先のない受講生には海技学院やセンター会員の求人情報を紹介するが、就職が決定するまでに時間がかかるため、求人情報の多い運輸局の船員職業安定所へ求職する受講生がいる③センター会員が訓練船を提供し、採用を希望していても受講生が断るケースや、逆にセンター会員が受講生を断るケースが見られる、と分析している。

そのため、今後の課題として①受講生が共育センター会員へ就職したくなるような魅力づくり（例えば奨学金制度など）②センター会員にもっとメリットのある船員確保・育成制度の構築③訓練船の確保④資金確保としてセンター会員への会費の増額、厚生労働省の公共職業訓練給付金の確保、支援制度の拡充などが挙げられている。

本部・支部だより

〈 本 部 〉

- | | | | |
|-------------|------------------------------------|-------------|---------------------------------------|
| 15/07/03 | 航海訓練所 教育課 中野弘也氏来会 | 15/09/18 | 波濤を越えて写真展オープニングセレ
モニー (岩田) |
| 15/07/15 | 海事団体連携懇談会 (岩田・及川) | 15/09/18 | 大島商船高専卒業式 (赤嶺) |
| 15/07/18 | 5 商船高専漕艇大会 (会場 広島商船) | 15/09/25 | 富山高専卒業式 (及川) |
| 15/07/20 | 合同進学ガイダンス横浜会場 (岩田、
赤嶺、及川、七呂) | 15/09/25 | 機関士協会OB会 (岩田) |
| 15/07/23 | 銀河丸船長・機関長来会 遠洋航海挨
拶 | 15/09/26 | 広島商船高専卒業式 (欠) 弓削商船
高専卒業式 (小池) |
| 15/07/25 | 銀河丸 出航式晴海埠頭 (岩田、及川
七呂) | 15/09/27 | 鳥羽商船高専卒業式 (岩田) |
| 15/07/27 | 海事三学会合同表彰式 (岩田) | 15/09/28 | 船員災害防止協会関東支部原田事務局
長来会 |
| 15/08/03 | 富山高専 運営諮問会議 (及川) | 15/10/02 | 商船系高専同窓会会長との懇談会&懇
親会 |
| 15/08/15 | 終戦記念日献花式 (岩田・及川) | 15/10/09 | 海技教育財団理事会 (岩田) |
| 15/08/17 | 東京地区船員労働安全衛生協議会 (岩
田) | 15/10/09 | 田口海事代理士 (田崎事務局員の同級
生) 来会 |
| 15/08/19 | 執行役員打合せ | 15/10/13 | 荒牧晃史氏 来会 |
| 15/08/24 | 平成 27 年度第二回臨時理事会 | 15/10/15 | 海技教育財団第 7 回奨学生選考委員会
(田島) |
| 15/08/26 | 富山高専遠藤先生来会 (海事人材育成
プロジェクト打合せ) | 15/10/16 | 富山高専北斗会 (岩田・及川) |
| 15/09/01 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
「かりゆし」 (岩田) | 15/10/17 | 海技大学同窓会総会 (岩田) |
| 15/09/02 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
「おーしゃんのーす」 (岩田) | 15/10/19 | 東京運輸支局船員労働環境部門担当
久世氏来会 |
| 15/09/04 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
「第五栄豊丸」 (岩田) | 15/10/19~20 | 海事人材育成プロジェクト (及川) |
| 15/09/07 | 船員労働安全衛生月間 訪船指導
「むさし丸」 (岩田) | 15/10/21 | 平成 27 年度第 2 回東京地方船員労働安
全衛生協議会 (田島) |
| 15/09/08 | 高専商船学科卒業生に入会案内説明
「青雲丸」 (岩田・及川) | 15/10/21~22 | 海事教育セミナー (富山高専射水
キャンパス 岩田・及川) |
| 15/09/10 | 航海訓練所研究発表会 横浜合同庁舎
(岩田) | 15/10/23 | 小木曾氏来会 |
| 15/09/11 | 船災防関東大会 横浜第二合同庁舎
(岩田) | 15/10/24 | 鳥羽商船同窓会東日本支部総会 (岩田) |
| 15/09/11 | 高専機構 樋口氏 来会 | 15/10/26 | 富山商船遠藤教授来会 |
| 15/09/15~16 | 海事人材育成プログラム (サブプ
ロ) 大阪 (及川) | 15/10/26 | 海事教育財団評議委員会 (及川) |
| 15/09/17 | 内航総連 50 周年記念式典 (岩田・及川) | 15/10/27 | 執行役員打合せ |
| | | 15/10/29 | 平成 27 年度第 2 回理事会 |
| | | 15/10/30 | 内航新聞上野次長来会 |
| | | 15/11/01 | 鳥羽商船学園祭出席 (岩田) |
| | | 15/11/09 | ラメール会ゴルフコンペ (岩田) |
| | | 15/11/11 | イレブンマリナーズゴルフコンペ (岩
田) |
| | | 15/11/12 | (株)コトラシステム土屋代表取締役来 |

会
 15/11/13 キャプラン(株)佐々木氏来会
 15/11/13 高等専門学校(商船系)振興協議会運営委員会
 15/11/18 日本海事新聞吉田氏来会
 15/11/19 航海訓練所熊上教務課長来会
 15/11/19 NPO法人 故郷の海を愛する会 川口会長来会
 15/11/20 キャプラン(株)佐々木氏来会
 15/11/24 機関士協会ゴルフコンペ(岩田)
 15/11/25 機関士協会講演会(岩田、及川)
 15/11/27 弓削商船高専京浜支部忘年会(岩田)

< 横 浜 >

1. 諸会合等

15/07/14 幹事会
 15/07/16 幹事会

2. 具体的活動

15/07/06 平成27年度第32回横浜港カッターレース報告書送付
 15/07/14 第2回合同緊急連絡会議
 15/07/17 第20回海の日前夜祭・ナビオス横浜
 15/07/22 9/11日合同講演会第1回打ち合わせ会
 15/08/25 第30回「海に生きる者の絵画展」
 於：東京芸術劇場
 15/09/02 合同講演会 最終打ち合わせ
 15/09/08 海洋会横浜支部講演会「天心の上映に至る経過について」 懇親会参加

15/09/11 平成27年度第1回全船協横浜・海福協合同講演会開催
 15/09/18 第26回写真展「波濤を越えて」オープニングセレモニー出席
 15/09/29 横浜支部閉鎖に伴う東京本部への引き継

< 神 戸 >

15/07/10 銀河丸講演会、神戸港振興協議会
 15/07/18 高専合同進学ガイダンス
 15/07/21 海の日祭典 於：ホテルオークラ
 15/07/22 内海水先区水先人会 会費集金
 15/07/27 定例会出席者4名
 15/07/29 ビル理事会
 15/08/24 本部理事会
 15/08/26 ビル理事会
 15/09/18 ビル理事会
 15/09/25 定例会 出席者8名
 15/10/14 ビル理事会
 15/10/21 定例会 出席者6名
 15/10/29 理事会(東京本部)
 15/11/04 ビル理事会
 15/11/11 といちクラブゴルフコンペ 西神戸ゴルフ
 15/11/13 商船学科振興協議会 (本部)

謹 賀 新 年



一般社団法人 全日本船舶職員協会

会 長 岩 田 仁

副 会 長	赤 嶺 正 治	理 事	加 山 文 治	理 事	三 輪 史 郎
専 務 理 事	及 川 武 司	理 事	七 呂 光 雄	理 事	望 月 正 信
理 事	相 川 康 明	理 事	田 中 三 郎	理 事	山 田 貢
理 事	大 賀 英 朗	理 事	福 地 赳 雄	監 事	亀 山 道 義
理 事	小 池 信 雄	理 事	松 見 準	監 事	渡 部 英 利

「第27回といちクラブ」ゴルフコンペ開催

神戸支部長 福地 赳雄

第27回といちクラブコンペが11月11日（水）西神戸ゴルフ場にて開催されました。例年8組くらいの参加がありましたが、今回はスタート時間が早い為に、大阪方面の方が不参加となったのと、各校先輩諸兄がご高齢になり、ゴルフをリタイアされた方が多いと推察されます。来年も同じ日に同じ場所で開催予定です。関西在住を問わず腕に自信のある方の参加をお待ちしております。

尚、全船協神戸支部もお手伝いしております。問い合わせは078-261-0585 福地 又は 森 迄

記

日 時 : 2015年11月11日（水） 07:52 OUT/IN同時START

場 所 : 西神戸G

競技方法 : ダブルペリア方式による18ホールストロークプレイ

成績表

順位	氏名	出身校	OUT	IN	GROSS	H'CAP	NET
優勝	竹内 英司	広島	45	43	88	14.4	73.6
準優勝	小池 信雄	弓削	41	43	84	9.6	74.4
3位	澤田 憲治	富山	43	46	89	13.2	75.8
4位	前 憲一郎	富山	52	48	100	24.0	76.0
5位	河野 理博	弓削	47	54	101	24.0	77.0
6位	上手 義治	大島	52	47	99	21.6	77.4
7位	伏見 國豊	弓削	55	48	103	25.2	77.8
8位	山本 一三	鳥羽	49	54	103	24.0	79.0
9位	松岡 静男	弓削	47	55	102	22.8	79.2
10位	梶川 尚紀	広島	52	49	101	21.6	79.4
11位	藤本 忠孝	大島	49	47	96	15.6	80.4
12位	浦田 満	富山	52	55	107	26.4	80.6
13位	副島 司	広島	46	54	100	19.2	80.8
14位	辻 武志	富山	55	60	115	33.6	81.4
15位	田坂 眞一郎	弓削	55	59	114	32.4	81.6
16位	福地 赳雄	富山	52	51	103	20.4	82.6
BB	山本 雅規	弓削	60	54	114	31.2	82.8
18位	山本 晴夫	広島	54	54	108	24.0	84.0

第17回イレブンマリナース杯ゴルフコンペ開催

幹事 岩田 仁

秋も深まった11月11日恒例の全船協ゴルフコンペをノーザンカントリークラブ錦が原ゴルフ場さくら草コースで開催しました。全船協の前身である十一会にこだわり11月11日という1が並ぶ日をマリナースデイとして秋のコンペをこの日に固定しています。

十一会時代のコンペから数えて今回は65回となり、春、夏年2回の開催としても30年に及ぶ伝統あるコンペです。

平成22年の春の大会の6組22名の参加をピークに参加者が減り続け今回は3組12名となりました。加齢により足腰の不調からゴルフから遠ざかる会員が増えてきている事や、海技者不足からまだ現役で頑張っているシニアが多いことも参加者減少の要因と思われます。

今までは千葉方面の起伏のあるコースで行ってきましたが今回は嗜好を変え、シニヤーにやさしい荒川河川敷コースとしました。スタートホールへは行くには渡し船で川を渡るなど河川敷ならではの風情のあるコースです。河川敷コースと言ってもヤードイジは18ホールで6090ヤードあり、我々にとっては、フェアウェイウッドが大活躍するコースでした。

スコアは下記表のとおりですが、日ごろの運動不足と練習不足の表れで反省点は多いようです。

当日は降り続いていた雨も上がり風もなく絶好のゴルフ日和に恵まれてのプレーでした。しかし、思い通りにいかないのがゴルフの面白さでもあり楽しみでもある。ドライバーは右へ左へ、アイアンはザックリや頭たたきの連発で楽しみはフロ上りのビールでした。



コース内の渡し船

とにかく全員ケガもなく楽しく18ホールをプレーできたことは何よりでした。そして、多忙のなかスケジュールを調整して参加して頂いた皆様には改めて厚くお礼申し上げます。次回もよろしくお願ひ致します。

成績報告								
順位	氏名		OUT	IN	Gross	HDCP	NET	摘要
優勝	飯島 寿	様	50	46	96	22.8	73.2	
準優勝	内田 成孝	様	50	48	98	22.8	75.2	NP×1
3位	寺澤 正司	様	46	45	91	15.6	75.4	LD×1
4位	可児 紘之	様	48	47	95	19.2	75.8	
5位	沖川 守	様	56	55	111	33.6	77.4	小波
6位	宮寺 重男	様	51	53	104	26.4	77.6	
7位	古谷 明雄	様	49	47	96	18.0	78.0	
8位	岩田 仁	様	47	42	89	10.8	78.2	BG, NP×2, LD×1
9位	渡部 英利	様	52	54	106	27.6	78.4	
10位	河合 昭	様	56	60	116	36.0	80.0	
11位	濱田 肖介	様	60	55	115	32.4	82.6	BB賞・大波
12位	榮 雄生	様	53	51	104	20.4	83.6	

商船学科卒業生の皆様へ

一般社団法人 全日本船舶職員協会

全船協 = 全日本船舶職員協会はこのような団体です！！

海事技術者の全国組織で「我が国の海洋産業の発展に寄与すること」を大きな目的としております。その目的を達成するため 8 種の事業を取り進めています。

1. 海事に関する事項を調査研究し、船舶の安全に資すること
2. 商船教育に関する調査研究と海事技術者後継者への支援
3. 海洋産業技術の調査研究とその技術図書発行、情報発信
4. 海事技術に関する講演会、研究会並びに情報交換会等の開催
5. 海洋産業関連就職者の福利厚生と共済並びに会員の親睦に関すること
6. 海洋産業関連に就職するための就業支援、人材育成、無料船員職業紹介
7. 海事関連団体との連絡及び協力を推進すること
8. その他、本協会の目的を達成するために必要な事業



特に商船学科在学生及び卒業生に対し、次の支援と相談を受け付けます。

1. 現役先輩の情報を元に、船会社の特徴を生かした就職活動の相談
2. 結婚等による転職活動の相談
3. キャリアアップするための相談

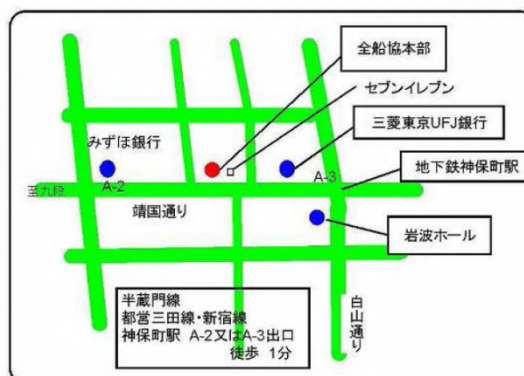
など。その他の船に関わる悩み事でも OK！

何事でもお気軽に、次の方法でお申し込み下さい。

TEL: 03-3230-2651

Mail: honbu@zensenkyo.com

FAX: 03-3230-2653



また、東京へ御越しの際は、お気軽に神保町にある本部事務所へもお立ち寄り下さい。

平日 10～17 時は開いていますが、事前に電話で連絡をいただくと幸いです。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2-34 千代田三信ビル 8 階

詳しくは、ホームページ URL: <http://www.zensenkyo.com/> をご覧ください。

例えば…

就職活動の際、東京の地理に不慣れなので心細い。会社への行き方がよくわからない。

大した相談事はないが、東京で働く商船高専の先輩と面識を持ちたい。など。

船員経験のある商船学科卒業生の女性事務員もおります。男性には聞きにくいことなども、対応可能です。

皆様にとって、拠り所となれる場所でありたいと考えています。会員でない方も歓迎です！

Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 石橋 武

本 部 〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル 代表 TEL (045) 650-3180 FAX(045) 663-4811
オペレーション部 TEL (045) 681-4081 FAX(045) 681-4090
URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp> TEL (045) 681-4091

東京事務所 〒108-0022 東京都港区海岸3丁目33番17号 TEL (03) 3453-1691 FAX(03) 3453-4025
千葉事務所 〒260-0023 千葉市中央区出洲港15番1号 TEL (043) 242-6391 FAX(043) 248-2553
木更津事務所 〒292-0836 木更津市新港8番5号 TEL (0438) 36-0700 FAX(0438) 36-4696
川崎事務所 〒210-0869 川崎市川崎区東扇島38番地1 602号室 TEL (044) 266-8877 FAX(044) 266-8877
横須賀事務所 〒239-0831 横須賀市久里浜8丁目10番6号 TEL (046) 835-5709 FAX(046) 835-4977

田子の浦水先区水先人会

会長 大久保 博史

副会長 漆 畑 忠雄

〒416-0936 静岡県富士市中河原28-2
電話 (0545) 33-0734

伊勢三河湾水先区水先人会

合同事務所
〒475-0831 愛知県半田市11号地1番5
電話 (0569) 23-0713

名古屋事務所
〒455-0033 愛知県名古屋港区港町1番9号
電話 (052) 654-1281

関門水先区水先人会

会長 野上明 芳

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目4番24号
電話 (093) 332-2384(代)

鹿島水先区水先人会

会長 久郷 良夫

〒314-0052 茨城県神栖市居切1909-16
電話 (0299) 82-5515
FAX (0299) 82-6205

鹿児島水先区水先人会

会長 松下 忠夫

副会長 橋之口 勉

水先人 今村 義幸

〒891-0122 鹿児島市南栄5丁目10-8
電話 (099) 260-7707
FAX (099) 260-7717

清水水先区水先人会

会長 中川 三夫

副会長 中村 政一

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリナーミナル3F
電話 (054) 352-2191
FAX (054) 351-0527

大阪湾水先区水先人会

会長 堀 眞琴

〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-5
電話 (078) 321-7221
FAX (078) 321-5307

会費納入者御芳名帳 (敬称略)

2015年7月11日～2015年11月30日

7月	藤中 満	早崎 弘泰	田邊 正彦	本望 隆司	内田 安昭	鈴木 剛也
商船三井フェリー	二宮 眞澄	中玉利 治	横山 良一	石原 弘通	山下 栄治	角田 圭
4,800	富永 信行	二川 英樹	森田 啓二	津田 道夫	濱尾 弘宣	ジェイマリン
岡田 頼人	武藤 兼廣	本田 修	岡田 卓三	國武 千歳	武田 康裕	9,600
時松 勇貴	堀本 俊幸	友利 賢吾	飯野 実	秋山 晃満	松村 武朗	秦 誠次
清水 洋平	本山 幹夫	個人会員	田中 健二	藤井 一洋	芝 修次	杉山 博
前田 龍弥	末岡 民行	9,600	伴 良造	臼井 栄三郎	吉村 重登	梶原 仁
相澤 功	末吉 光郎	9月	山田 貢	川島 弘行	木村 正助	原田 昭二
薄井 雄基	木下 健	個人会員	亀山 道義	大江 俊洋	徳森 生喜	嵐 公司
筏井 啓	木村 照孝	9,600	今村 義幸	知識 康二	菅原 央貴	千綿 真治
富山 幸弥	矢野 清	田丸 修	高尾 幸徳	鵜飼 幹夫	竹田 英樹	個人会員
木下 博	有光 和生	館 満治	吉岡 勉	力武 敏美	峯 浩	9,600
廣瀬 潤一	立野 征生	綿森 繁樹	渡部 英利	松見 準	近藤 武	中瀬 和典
内海水先人会	大阪湾水先人会	片山 清	東軒 弘幸	大賀 英朗	東野 友和	田葉 行宏
9,600	9,600	武田 雄三	熊井 秀樹	(2年分)	武村 泰宏	阿久根 浩人
井上 健二	中島 敏行	森成 哲也	宮坂 昌弘	鳶 正昭	森 敬行	吉田 悟
宇高 保	風折 正美	畑内 康孝	中村 祐太	大木 未来	河野 理博	曾我 隆弘
河合 謙太郎	南方 日出一	阿部 秀也	桑田 大輝	寺田 千穂	柿山 朗	山口 久雄
河本 裕三	源 保	高垣 毅	二神 泰斗	再入会(4,800)	清水 秀悟	杉本 真吾
吉村 蔣造	大下 和義	柏木 昭彦	田中 健一	杉森 四郎	村上 龍	中平 金次郎
橋本 三郎	大石 勝文	増島 忠弘	瀧口 怜	終身会員	清水 啓矢	西 泰浩
吾妻 文雄	齋藤 彰	本田 睦生	原田 圭司	9,600	大橋 泰夫	内山 弘孝
後藤 清治	秋山 孝行	早稻田 慎也	曾根 邦弘	高橋 尚徳	大野 光久	川下 正剛
港 明広	池上 英二	南 清和	西村 陽造	雲林院 記大	中川 佳彦	松田 翔平
高岡 昭男	山下 公弘	納 英治	山口 正二郎	60,000	藤本 真之	砂山 美里
高濱 洋嘉	香田 比呂志	原 正純	大宮 博孝	大城 喜八郎	若宮 一三	(2年分)
佐々木 重幸	終身会員	吉本 茂正	三浦 稔	高橋 尚徳	坂本 聡	終身会員
坂本 洋之助	75,000	野村 浩久	紺頼 英雄	牧野 博久	中川 和俊	9,600
山口 清	高垣 政治	小池 信雄	下野 紘史	岡野 菊蔵	竹田 友丈	白石 整司
山田 昌利	但し、6月	小林 大	吉澤 勇	75,000	村田 一明	
小山 健一	60,000	七呂 光雄	矢澤 好正	高垣 政治	江川 裕之	
小西 宏幸	大城 喜八郎	鬼木 海	加藤 航	永井 俊彦	濱野 優二	
小西 壽	8月	竹内 航平	田島 孝一	六渡 昌史	神田 修二	商船学科卒業生
松尾 和徳	JXオーシャン	宮武 弥希	川崎 敏夫	10月	淵上 勇二	入会者
松本 弘明	9600	清水 貢	町 裕次	個人会員	八角 操	4,800
松林 信義	浦川 修	渡辺 隆彦	松田 伸一	9600	三好 闊昌	大島
上池 静夫	鬼塚 夕季愛	小田部 誠一	藤井 哲郎	岩本 正直	中島 章	鴨瀬 拓海
新家谷 聡	古川 洋	加藤 明洋	鱸居 芳昭	岡本 篤	松田 孝	吉永 友安
森保 秀明	高田 勉	厚東 貞治	田村 光弘	鬼頭 俊介	坂部 正憲	後河内 敦
森脇 千秋	山中 亨子	小松 和夫	加藤 郁夫	沖本 和也	三浦 武	高倉 幸臣
西山 英二	山田 健太	久保田 博公	木村 潔司	岩藤 薫	久保 岳人	三戸 彩美
青山 保	山田 隆二	安岡 征治	金澤 輝雄	岩本 利雄	11月	諏訪 純也
倉本 修	蒔田 和成	菅原 大貴	寒河江 芳美	中居 豊平	玉井商船	門脇 元
村嶋 秀	周佐 智也	岩切 等	佐野 博	橋之口 勉	9,600	鳥羽
谷口 誠	秋元 光博	杉山 秀光	佐野 隆史	森田 竜矢	石川 祐二	溝口 太陽
丹後 和美	出貝 孝洋	五井 和貴	堀田 規安	三輪 史郎	清瀬 哲也	近藤 慎一郎
中森 晴雄	勝木 輝明	山口 守	西村 臣正	濱口 澄夫	千綿 真治	松野 航大
中村 充美	上澤 恒介	大西 正則	里本 幸大	西山 貴治	商船三井がパン	鳩山 勇太
中尾 登一	新田 浩貴	山田 司	野田 則之	安部 亮志	エキスパート	富山
辻 武志	須田 浩明	藤中 恒夫	竹中 五雄	内藤 真世	4,800	小野 奨准
田中 博昭	西本 雅之	阿部 碩志	原田 博之	鈴木 晴敏	岡本 準二	石川 智也
島田 愛水	曾我部 博弥		寺角 亨	高岡 俊輔	桑原 真樹	田澤 静夏

海の図書室

～ 新刊紹介 ～

<マリタイムカレッジシリーズ>
1・2級海技士はじめての英語指南書
～専門知識につなげよう～
商船高専キャリア教育研究会 編

国家試験には、外航船員の業務で使用される書類や国際条約が、多く出題されています。なかには、授業で取り扱わないような高い専門性が要求される内容も多くあります。海技士国家試験に合格するには、学校の授業で学んだそれぞれの知識同士を結びつけて、船舶運航について総合的に理解する必要があります。それには、単に英文を理解して和訳するだけでなく、英語の基礎的な知識や、船舶運航に関する幅広い専門用語や専門知識を身につける必要があります。そして、船員として安全かつ的確に船舶運航を行うには、学問としての知識だけではなく、現場ですぐさま応用できる実践的で総合的な知識が求められています。それには、学校で学んだ知識を基礎にしながらも、現場での経験を通じて自分のなかに生きた知識を構築する必要があります。本書は、この大きな目標の第一歩として、学習者のみなさんが自分一人の力でも、英文法や専門用語、専門知識を無理なく正しく理解し、効果的に力をつけられるように工夫しました。（「はじめに」より抜粋）

マリタイムカレッジシリーズ

1・2級海技士



はじめての英語指南書

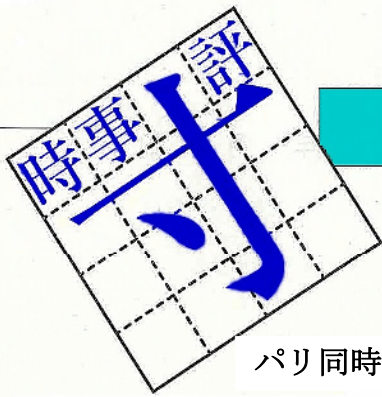
商船高専キャリア教育研究会 編



KAIBUNDO

A4判・208頁・定価（本体2,700円＋税）

発行＝海文堂出版株式会社



パリ同時テロと対抗措置

フランス・パリで11月13日夜（日本時間14日未明）、同時テロがあり、130人が亡くなりました。中心部の劇場やレストランなど少なくとも6ヶ所で約30分間に集中して爆発や銃撃が相次いだのです。この日は金曜日の夜で人が集まる場所が狙われました。

フランスのオランド大統領はイスラム過激派組織「イスラム国=IS」の犯行と断定し、非常事態宣言を出し、来年2月末まで延長することになった。「イスラム国」への対抗措置としてシリア北部ラッカ等の拠点をフランスのみでなく、アメリカ、ロシア、と連携して空爆強化も進められており、またイギリスも空爆に参加する考えを示している。同時テロ後のG20でのテロ非難及び国連安全保障理事会でのテロ防止に向けた決議案採択と「市民を狙った残酷な犯行」に世界中が一致団結して取り組むことになった。

世界で活躍する会員の皆さん注意して下さい。

TO記

表紙写真 三次元物理探査船「資源」 提供先 JOGMEC

三次元物理探査船「資源」は、日本の周辺海域に存在する、石油・天然ガス等の海底資源の精細なデータを効率的・機動的に収集することを目的とした、経済産業省所有の公船です。

本船の運航管理、調査の実施については、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）に委託されています。

主要諸元としては、国籍：日本、船籍港：千葉県船橋市、建造年：1999年（ノルウェー）、総トン数：10,395トン、全長：86.2m、幅：39.6m、喫水：7.3m、航続期間：106日、定員：65名、船速：13.5ノット、主推進機関：電気推進機関（アジマススラスタ）×4基、発電機：ディーゼル発電機：3,200KW×4基、導入時期：2008年（平成20年）2月より運航開始。

編集後記

今回より海事関係業界で活躍する女性を取り上げて見る事にし、「女性の活躍」の項目を設けました。最初に投稿して頂いたのは海事代理士としてスタートした“田口はるか”さんです。多くの方を紹介して行こうと考えておりますので、是非会員の皆様に推薦して頂きたいと思っております。

また、当協会の準会員（船員教育機関の在學生）も僅かながら増えて来ており、今回は「都立大島海洋国際高校」の5名が申込みをして来ましたので、130号に紹介記事を掲載しました。

事務局としては、これから本会報を通して会員相互の親睦を図りながら全船協活動を広げて行きたいと考えております。

全船協 No.130 新春号

平成28年1月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-2-34 千代田三信ビル 8階
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail : honbu@zensenkyo.com

URL : <http://www.zensenkyo.com>

しまなみ人物伝

村上貢 著



懸命に海と地域の発展のため奮闘した彼・彼女らが
残した足跡は、日本の近代史そのものといえるだろう。

日本の歴史は、いつの時代も海と深く関わりながら展開されてきた。
本書は、明治・大正・昭和の海運界に身を置き、主体的に生き抜いた人たちを中心に、しまなみ海道に縁のある先人たちの生涯を綴る12編からなる。

四六上製 260頁 定価(本体1,800円+税)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3292 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp



海事関係のお客様は全日本海員組合の組合員のご紹介があれば特別価格にてご婚礼・ご宴会・ご宿泊がご利用いただけます。

ようこそ美食のホテル
マリナーズコート東京へ

ご婚礼・ご宴会・各種会合・ご宿泊
レインボーブリッジをはじめとする東京湾の素敵な景観とともに
ごゆっくりお過ごしいただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京 〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 ご予約 TEL.03-5560-2525

海員会館ご案内

エスカル室蘭 (0143) 22-7009 ナビオス横浜 (045) 633-6000
川崎海員会館 (044) 233-5896 エスカル神戸 (078) 341-0112
エスカル横浜 (045) 681-2141 どなたもご利用いただけます

<http://www.jswa.or.jp>

一般財団法人 日本船員厚生協会 電話(045) 319-4506

■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人
船員保険会

会長 坂野 泰治

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597
URL <http://www.senpos.or.jp>

海事業界メディアのバイオニア

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは
電話 03-3436-3222 まで

電子版サービス「マリナビ」は
www.marinavi.com へ